

授業名	教科教育法家庭Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎瀬谷 真理子			
開講期				
授業の概要	[授業の目的・ねらい] 中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、家庭科教育の変遷をふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、体系的に家庭科教育を学ぶ。中学校における教科指導として、学習指導要領、教科の目標、内容、指導方法について学習し、年間指導計画、学習指導案の作成法を学ぶとともに、実践力をつけるために模擬授業をととして、生活が直面する諸問題を解決する力を養うための家庭科教育の重要性と役割を考える。主体的な学びとしてアクティブラーニング手法により学習指導案の作成と模擬授業の実践を行う。 更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。			
	[授業全体の内容の概要] 家庭科の教育目標、学習内容や家庭科教育の変遷をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、その系統性について理解を深める。また、学習内容の探究に努め、学修指導案の作成を通して家庭科教育について考え、模擬授業の実践につなげていく。			
授業の到達目標	①家庭科教育の変遷を理解するとともに、小学校・中学校家庭科の教育目標および内容を総合的な視点で捉え、理解することができたか ②中学校家庭科学習指導要領から、家庭科教育の意義や内容について理解することができたか ③家庭科の学習指導案（中学校）を作成し、作成した指導案の授業構成（流れ）についてプレゼンテーションができたか。 ④より良い授業づくりのために、積極的に取り組めたか 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	家庭科教員免許状取得を目指す上記の学生。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅱ」の履修条件となる。	成績の 評価方法・基準	①課題や提出物（レポートなど）20％ ②学習指導案の作成とプレゼンテーション30％ ③確認テスト 50％ ①から③の総合評価とし、60％以上により合格となる。	
テキスト	中学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）東京書籍発行 中学校教科書「技術・家庭 家庭分野」東京書籍 その他、授業時に配布するプリント			
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」、高等学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省）教育図書発行			
学生への要望	教科教育法家庭Ⅰは、「教科教育法家庭Ⅱ」への土台となり、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	TP9401			
ディプロマポリシーとの関係	知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力			
オフィスタイム	家政学館 4F被服学研究室：月曜日Ⅰ限			
アクティブラーニング実施内容	授業のストーリーを作り、本時案に基づいてプレゼンテーションする。			
実務家教員の経歴	[実務経歴] 福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス、家庭科教育の変遷 1	家庭科教育の変遷を学ぶとともに、家庭科教育の目的などについて理解する。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。 シラバスの確認により履修内容を把握する。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。	60
2	家庭科教育の変遷 2、家庭科教育の独自性と目的	家庭科教育の変遷を抑えながら、家庭科で何を教えるか、学習指導要領とは何かについて学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
3	家庭科学習内容1ー家庭科の学習内容（小学校）ー	小学校学習指導要領の確認、小学校家庭科の教科書を用いて、小学５・６年生がどのようなことを学ぶのか確認し、年間指導計画について学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
4	家庭科学習内容2ー家庭科の学習内容（中学校）	中学校学習指導要領の確認と中学校家庭科の教科書を用いて、３年間で学ぶ内容をしっかりと把握し、年間指導計画について学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
5	中学校家庭科の学習内容の探究 1	家族・家庭生活分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
6	中学校家庭科の学習内容の探究 2	保育・子どもの成長と発達分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
7	中学校家庭科の学習内容の探究 3	食生活分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	中学校家庭科の学習内容の探究 4	衣生活生活分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
9	中学校家庭科の学習内容の探究 5	住生活・消費・環境分野の探究。中学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
10	授業づくりの基礎 1	授業のストーリー作りについて学ぶ、学習指導案の書き方について基本を学び、作成する。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、課題レポートを実施する。	60
11	授業づくりの基礎 2	授業のストーリー作りについて学ぶ、学習指導案の書き方について基本を学び、作成する。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を作成する。	60
12	学習指導案をプレゼンテーションする①	作成した学習指導案をプレゼンテーションして、より良い授業の構築に向けてディスカッションする。	講義内容を整理し、ノートやワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を作成する。	60
13	学習指導案をプレゼンテーションする②	作成した学習指導案をプレゼンテーションして、より良い授業の構築に向けてディスカッションする。	自己評価と相互評価を行い、授業の分析を行いワークシートにまとめる。	60
14	学習指導案をプレゼンテーションする③	作成した学習指導案をプレゼンテーションして、より良い授業の構築に向けてディスカッションする。	自己評価と相互評価を行い、授業の分析を行いワークシートにまとめる。	60
15	授業の総括、振り返り、確認テスト	授業の総括を行い、自己評価と相互評価を行う。確認テストの実施により、学んだ知識の定着につなげる。	確認テストにより、学んだ知識を整理する。	60

授業名	教科教育法家庭Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎瀬谷 真理子		
開講期			
授業の概要	[授業の目的・ねらい] 中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、「教科教育法家庭Ⅰ」での学びをふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、家庭科教育の在り方を学ぶ。高等学校における教科指導として、学習指導要領、教科の目標、内容、指導方法について学習し、年間指導計画、学習指導案の作成法を学ぶとともに、実践力をつけるために模擬授業をとおして、学習領域ごとの課題を把握し、家庭科教育の重要性と役割を考える。アクティブラーニングとしても主体的な学びによる実践を展開する。 更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] 高等学校家庭科の教育目標、学習内容をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、その指導内容について領域ごとに理解を深める。また、学習指導案の作成を通してプレゼンテーションや模擬授業を行い、実践力を高めるとともに、家庭科教育の在り方について考える。		
授業の到達目標	①高等学校家庭科の教育目標および内容を総合的な視点で捉え、理解することができたか ②高等学校家庭科学習指導要領から、家庭科教育の意義が理解できたか。 ③単元指導計画及び、学習指導案を作成することができ、学習指導案に沿って、模擬授業を実施することができたか ④より良い授業づくりのために、探究する姿勢で教材研究に取り組めたか。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	家庭科教員免許状取得を目指す上記の学生対象。「教科教育法家庭Ⅰ」を履修していることが望ましい。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅲ」の履修条件となる。	成績の 評価方法・基準	①課題や提出物（レポートなど）20% ②学習指導案の作成とプレゼンテーション30% ③確認テスト 50% ①から④の総合評価とし、60%以上により合格となる。
テキスト	高等学校学習指導要領解説・家庭編 文部科学省 高等学校教科書「家庭基礎」自作プリント		
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」東京書籍		
学生への要望	教科教育法家庭Ⅱは、「教科教育法家庭Ⅲ」への土台となり、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。		
位置付け・水準	TP9402		
ディプロマポリシーとの関係	知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力		
オフィスタイム	家政学館 4F被服学研究室 月曜日Ⅱ限		
アクティブラーニング実施内容	教材研究を深めながら学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。		
実務家教員の経歴	福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス～家庭科教育について～家庭科で何を学ぶのか、何を教えるのか	教科教育法家庭Ⅰを振り返りながら、家庭科教育における目的について確認する。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。課題レポートを作成する。	60
2	高等学校家庭科の年間指導計画とSDG sの視点について	高等学校学習指導要領を踏まえた家庭科の年間指導計画について、実際のものを確認しながら学ぶとともに、SDG sの視点について確認していく。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。採用試験過去問題についても実施する。	60
3	高等学校学習指導要領について	高等学校における学習指導要領の改訂のポイントを理解し、中学校との関連性を把握して、高等学校における家庭科教育の在り方を考える。高等学校学習指導要領を踏まえた家庭科の年間指導計画について、実際のものを確認しながら学ぶ。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。採用試験過去問題についても実施する。	60
4	高等学校学習内容の探究 1	家族・家庭生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
5	高等学校学習内容の探究 2	保育・子どもの成長と発達分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	高等学校学習内容の探究3	食生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
7	高等学校学習内容の探究4	衣生活分野・住生活分野の探究。高等学校学習指導要領を読み解き、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。実際に全員が教科書（家庭基礎）の説明も部分的に実施する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。教員採用試験過去問題についても実施する。	60
8	授業のストーリーづくりと学習指導案の作成	学習指導案の作成に向けて、作成のポイントを学ぶとともに授業のストーリー作りを行い、教材研究につなげる。	業内容を振り返り、課題を作成するとともに学習指導案を作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
9	指導効果を高めるワークシートの作成と模擬授業の準備	作成した学習指導案を踏まえて指導効果の高いワークシートについて考えを深めながら作成するとともに、教材研究につなげる。	業内容を振り返り、課題を作成するとともに学習指導案を作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
10	模擬授業1	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
11	模擬授業2	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
12	模擬授業3	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
13	模擬授業4	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
14	模擬授業5	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
15	授業のまとめと振り返り、確認テスト	講座全体を振り返り、確認していくとともに、確認テストにより学びの定着を図る。	確認テストの反省と評価	60

授業名	教科教育法家庭Ⅲ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎瀬谷 真理子			
開講期	前期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、「教科教育法家庭Ⅰ～Ⅱ」での学びをふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、新たな時代に求められる家庭科教育の資質・能力とSDGsについても取り入れ、これからの家庭科教育の在り方を学ぶ。教科指導として、探究的で深い学びをつくるカリキュラム・デザインを考えながらの学習指導案の作成法を学ぶ。また、アクティブラーニング手法を取り入れ、実践力をつけるために模擬授業をととして、現代の生活課題を反映させた指導内容を展開させるとともに、家庭科教育の重要性と役割を考える。 更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 [授業全体の内容の概要] 家庭科の教育目標、学習内容をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、その指導内容について領域ごとに理解を深める。また、指導案の作成を通して家庭科教育について考える。			
授業の到達目標	①高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか ②学習指導案に沿って、模擬授業を実施できたか ③現代の生活課題を捉え、学習領域ごとに反映させ、プレゼンテーションすることができたか ④より良い授業づくりのために、積極的に取り組めたか 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力			
履修条件	家庭科教員免許取得を希望する上記対象学生で「教科教育法家庭Ⅰ・Ⅱ」を受講していることが望ましい。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅳ」の履修条件となる。	成績の 評価方法・基準	①課題レポート・学習指導案・模擬授業 50% ②確認レポート 50% ①と②の総合評価により60%以上で合格とする。	
テキスト	高等学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）教育図書発行 、高等学校家庭科図説資料 第一学習社 高等学校教科書「家庭総合」東京書籍、その他、授業時に配布するプリント			
参考書	高等学校教科書「家庭基礎」実教出版、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省			
学生への要望	教科教育法家庭Ⅲは、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	TP9403			
ディプロマポリシーとの関係	知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力			
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目			
アクティブラーニング実施内容	作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、相互評価としてディスカッションする。			
実務家教員の経歴	福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス ～家庭科教育を考える～	これまで学修してきたⅠ～Ⅱを振り返り、家庭科教育における授業の目的と授業実践について、教育実習を視野に考える。また、家庭科教員を目指すことの意味を考える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。課題レポートを作成する。	60
2	家庭科における評価	評価方法の種類と特徴について学び、家庭科における評価について理解を深める。新たな評価方法と家庭科について、学びを深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
3	学習内容の探究～持続可能な消費生活・環境～	家庭科教育におけるSDGsの視点について理解するとともに探究的な学びとは何か、問題解決型の学習について、カリキュラム・デザインすることを実践して学ぶ。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	単元指導計画の作成と評価規準	単元指導計画の作成の仕方について学び、家庭科における評価規準とはどのように考えていくものなのか実践をとおして学ぶ。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。単元指導計画を作成する。	60
5	単元設定と学習指導案の作成	探究的で深い学びの授業を想定し、単元設定を行うとともに、授業評価の視点も取り入れ、これからの家庭科をかんげる授業の構築をめざした学習指導案の作成に向けて、授業のストーリー作りを行い、教材研究につなげる。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成するとともに学習指導案を作成する。教材研究についても計画し、実施する。	60
6	板書計画と授業研究・ワークシート作成～わかる授業をめざして～	教材研究についてその方法を理解し、よりよい授業のための教材としてワークシート作成についての要件を把握する。板書の機能と実際について理解を深め実践できるようにする。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
7	模擬授業の準備（学習指導案の作成と教材研究）	学習指導案を作成し、模擬授業を想定し、教材研究を進めるとともに学習指導案を完成して提出できるようにする。	講義内容を整理し、ワークシートにまとめる。授業内容を振り返り、学習指導案を完成させて提出する。教材研究についても計画し、実施する。	60
8	学習内容の探究 模擬授業 1	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
9	学習内容の探究 模擬授業 2	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
10	学習内容の探究 模擬授業 3	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
11	学習内容の探究 模擬授業 4	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
12	学習内容の探究 模擬授業 5	作成した学習指導案に沿って模擬授業を実施する。自己評価と相互評価を行う。学習内容の要点を確認し、教員採用試験対策としてのポイントも整理する。	学習指導案を相互に検討したり自己評価部分での改善点を確認する。自己評価票の作成と相互評価票の作成、提出。	60
13	現代的課題の探究	ワーク・ライフ・バランスについて、現状と課題を捉え、子育て支援策を確認する。欧州先進国の事例から学ぶ	調べ学習を通して、捉えた課題を発表する。レポート作成と提出	60
14	授業のまとめと振り返り	講座全体を振り返り、確認していくとともに、確認レポート作成により学びの定着を図る。	確認レポート作成と評価	60
15	現代の生活課題を捉える	高等学校におけるホームプロジェクトと学校家庭クラブについて学び、現代の生活課題への考え方、教材研究の在り方を模索する。	講義内容を整理し、授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60

授業名	教科教育法家庭Ⅳ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎瀬谷 真理子			
開講期	後期			
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、これまで学修してきた「教科教育法家庭Ⅰ～Ⅲ」を踏まえて、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書をもとに、新たな時代に求められる家庭科教育の資質・能力について考えを深め、教育実習を前提に授業研究や教材研究、学習指導案の作成について実践力を高めていく。教科指導として、アクティブ・ラーニング手法を踏まえ、探究的で深い学びをつくるカリキュラム・デザインを考えながら模擬授業をととして、現代の生活課題を把握し、家庭科教育の重要性と役割を考える。 更に、教員養成に向け、高等学校で家庭科教育に携わってきた経験を生かした指導を行い、ワークシート及びレポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 〔授業全体の内容の概要〕 家庭科の教育目標、学習内容をふまえ、学習指導要領を把握したうえで、教育実習を視野にその教科指導について領域ごとに理解を深める。また、模擬授業を通して実践力を高め、評価の在り方についても実践を通して学び、今後の家庭科教育について考える。			
授業の到達目標	①単元指導計画、学習指導案の作成ができたか ②学習指導案に沿って、模擬授業を実施できたか ③評価の仕方を研究し、教材の開発と研究に努め、プレゼンテーションすることができたか ④教育実習を視野によりよい授業が展開できるよう積極的に取り組めたか 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的な評価が達成度7割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力			
履修条件	家庭科教員免許取得を希望する上記の学生で「教科教育法家庭Ⅰ～Ⅲ」を受講していることが望ましい。	成績の 評価方法・基準	①課題レポート・学習指導案・模擬授業50% ②確認レポート 50% ①と②の総合評価で60%以上で合格とする。	
テキスト	高等学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）教育図書発行、高等学校教科書「家庭総合」教育図書、高等学校家庭科図説資料「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 文部科学省 その他、授業時に配布するプリント			
参考書	高等学校教科書「家庭総合」東京書籍、中学校教科書「技術・家庭 家庭分野」開隆堂			
学生への要望	教科教育法家庭Ⅳは、中学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	TP9404			
ディプロマポリシーとの関係	知識・問題解決力、総合的な学習体験、創造的思考力			
オフィスタイム	被服学研究室 月曜日Ⅱ、Ⅲ限目			
アクティブラーニング実施内容	作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い、相互評価としてのディスカッションを行う。			
実務家教員の経歴	福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス ～家庭科教育について考える～	これまで学修してきたⅠ～Ⅲを振り返り、家庭科教育における授業の目的と授業実践について、教育実習を視野に考えるとともに家庭科教員をめざすことの意味を確認する。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。課題レポートを作成する。	60
2	家庭科教育と現代的課題	実践的・体験的学習を進めるにあたり、留意すべき点を確認するとともに、教員採用試験の実情を把握し、自治体研究を実施する。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返り課題レポートを作成する。	60
3	学習指導案の作成と教材研究①	実習先の学校種ごとに想定して、指導内容の確認と指導上の留意点を踏まえ、単元設定とその計画を立案し、学習指導案の作成ができるようにする。	学習指導案を作成するとともに、教材研究を進め、授業実施に向けて実践力を高める。	60
4	学習指導案の作成と教材研究②	実習先の学校種ごとに想定して、指導内容の確認と指導上の留意点を踏まえ、単元設定とその計画を立案し、学習指導案の作成ができるようにする。	学習指導案を作成するとともに、教材研究を進め、授業実施に向けて実践力を高める。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	模擬授業と相互評価 「家族・家庭生活」領域	「家族・家庭生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
6	模擬授業と相互評価 「家族・家庭生活」領域	「家族・家庭生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
7	模擬授業と相互評価 「衣生活」領域	「衣生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
8	模擬授業と相互評価 「保育・子どもの成長と発達」領域	「保育・子どもの成長と発達」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
9	模擬授業と相互評価 「保育・子どもの成長と発達」領域	「保育・子どもの成長と発達」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
10	模擬授業と相互評価 「福祉・共生社会」領域	「福祉・共生社会」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
11	模擬授業と相互評価 「福祉・共生社会」領域	「福祉・共生社会」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
12	模擬授業と相互評価 「住生活」領域	「住生活」領域について、指導内容の確認と指導上の留意点を学ぶ。模擬授業を行い、相互評価によって領域における指導上の留意点を理解する。また、教員採用試験において重視される部分も抑える。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。授業内容を振り返るとともに、過去問題についても実施する。	60
13	教材教具の工夫～中学校「技術・家庭」家庭分野における製作	中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作実習の教材を製作により実践する。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。	60
14	教材教具の工夫～中学校「技術・家庭」家庭分野における製作	中学校「技術・家庭」家庭分野の被服製作実習の教材を製作により実践する。	講義内容を整理し、ノートにまとめる。	60
15	授業のまとめと振り返り、確認レポート	講座全体を振り返り、確認していくとともに、確認レポートにより学びの定着を図る。	授業の振り返り、確認レポートの反省と評価	60

授業名	教育原理Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎野口 周一 山本 裕詞		
開講期			
授業の概要	本授業は共通基礎科目であると同時に、教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目である。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。 こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスをを培うようにする。 また、授業後半で実施する小テスト、小レポートは、添削し、次回授業冒頭で個々人へ返却・解説を通じてフィードバックする。 尚、本科目の担当教員である山本は、中等教育における教員経験者として配置されている。実践と理論の往還の中で、当該授業は進められていく。		
授業の到達目標	<履修カルテの評価項目：到達目標> ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができること。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになっていること。 ③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになっていること。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになっていること。 これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「総合的学習経験・創造的思考力」が培われる。また、単位認定の最低基準は、これら四つの項目の7割程度理解し、活用できることである。		
履修条件	家政学部 生活科学科 社会福祉専攻 2年 2単位 選択 家政学部 生活科学科 建築デザイン専攻 2年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択 家政学部1年生 2単位 選択	成績の 評価方法・基準	①授業中に数回レポートを課し、次回の授業で確認を行う。レポートの評価と発表・意見交換などで50点とする。 ②学期末のレポートまとめて50点。この2つの総合点が100点とする。
テキスト	毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布する。それらを順序良くノートやファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。 尚、教科書は、田嶋・中野他著『やさしい教育原理 第3版』（有斐閣アルマ、2020年）を使用する。		
参考書	授業の中で、必要に応じて紹介していく。		
学生への要望	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、教科書を中心としながら、下調的な学習を求める。 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、歴史的系譜というものがあり、まずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。		
位置付け・水準	1年：GU1123 2年：TP9101		
ディプロマポリシーとの関係	「授業の到達目標」に記載している。		
オフィスタイム	野口：時間割発表後に知らせる。 山本：時間割発表後に知らせる。		
アクティブラーニング実施内容	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には下調的な学習を求める。		
実務家教員の経歴	山本：「授業の概要」欄参照。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	1. 人間への問いと教育への問い 野口	受講生の皆さんと一緒に次のテーマについて考える。 1 「人間とは何か」 2 ルソーの『エミール』と「子どもの発見」	予習・復習	90
2	2. 教育とは何か2 野口	1. 発達への助成的介入 2. 教育と教化と形成	予習・復習	90
3	3. こころとからだを育てる 野口	1. こころとからだを育てる計画 2. 学力とは何か	予習・復習	90
4	4. こころとからだを育てる 2 野口	1. 身体文化と教育 2. 道徳性の発達と教育 3. 教育における言葉と文化	予習・復習	90
5	5. よりよく学び、教えるために 野口	1. 学習することの意味 2. 授業を改革するために 3. 学校教育の可能性	予習・復習	90
6	6. 教師の仕事 野口	1. 教師とは何か 2. 教師の力量とは何か 3. 授業をつくる教師	予習・復習	90
7	7. 青年期と教育 野口	1. 青年とは何か 2. 現代の青年と社会参加 3. 青年期の課題と教育	予習・復習	90
8	8. 教育法規の体系 山本	1. 日本国憲法 2. 子どもの権利条約 3. 教育基本法 4. 学校教育法・同施行規則 法の形式的効力の原理と、制度規範としての教育法の基礎を学びます。	予習・復習	90
9	9. 日本の教育制度と行政 山本	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム 日本の教育制度と行政を総覧した上で、教育行政の一般行政からの相対的独立の意義を考えます。	予習・復習	90
10	10. 学校とは何か 山本	1. 学校の登場 2. 近代学校の性格 学習権保障の内実を考察の中心に据えながら、国家・社会的見地からの学校体系の設計について検討します。	予習・復習；レポート作成と整理	90
11	11. 学校とは何か 2 山本	1. 近代以前の日本の学校 2. 日本の「近代化」と学校教育 3. 新たな出発、その後の展開	予習・復習	90
12	12. 生涯学習社会 山本	1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 地球市民という生き方 生涯学習社会への移行を理解するために、コンドルセにみる理念的誕生と、その後の制度の推移を確認する。その上で、人間化へ向かう生涯学習と社会適応（資本適応）に向かう二つのベクトルがあることを理解し、我が国における「生涯学習社会」の実態を評価する。	予習・復習	90
13	13. 日本社会が抱える教育に関する病理（1） 山本	1. 「いじめ」研究による「いじめ」解釈 2. 群生秩序と普遍秩序 3. 校則を考える 個性と社会性の双方の成長を考えたとき、目指すべき集団指導の在り方を考えていく。	予習・復習	90
14	14. 日本社会が抱える教育に関する病理（2） 山本	1. 「教育病理」の理論と制度的対応の限界 2. 子どもの最善の利益とは 「教育病理」概念についての理解を深め、それに対する制度的対応を確認することを通して、公教育に内在する原理的課題について考察する。	予習・復習	90
15	15. 授業のまとめと確認テスト 野口、山本	授業のまとめと確認を行う。	予習・復習	90

授業名	教育心理	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎折笠 国康			
開講期				
授業の概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 GU1124			
授業の到達目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関連：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力			
履修条件	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 家政学部 食物栄養学科 2年	成績の 評価方法・基準	授業内容の「70％程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30％、試験70％で行う。	
テキスト	特に指定はない。			
参考書	講義の中で、適宜紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。			
位置付け・水準	GU1124			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力			
オフィスタイム	金曜1, 2限 835			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	アドラー心理学（１）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	アドラー心理学（２）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の内容を振り返り心理学的な知見のまとめを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

授業名	教育原理Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 日本や諸外国の教育制度を知ることで、現在の私たちをとりまく教育について自ら考えることをねらいとし、教育法規の視点から教育制度の理解を深めることができるようになることを目標とする。また、新聞報道内容から教育問題を抽出し、順番で発表して各自の学びを共有するアクティブラーニングを取り入れる。なお、教育に関する法規については、小テスト(次回授業冒頭でフィードバック)で知識の定着を図り、教員採用試験に備える。授業は、講義形式で行うことを基本とするが、調査発表、小レポートの作成、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。最終授業では授業全体のフィードバックを行う。 なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実際を意識した指導を行うことで、受講生の教職に就く者としての自覚を喚起する。			
授業の到達目標	①日本の教育制度について、その概要を理解し、説明することができる。 ②現代の教育制度の変化について、その概要を理解し、説明することができる。 ③教育経営的な要素について、その概要を理解し、説明することができる。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教職課程履修者、生活科学科在籍者、科目等履修者	成績の 評価方法・基準	授業ごとに実施する小レポート・小テスト50%、最終授業時に実施する総まとめテスト50%で、総合評価6割以上の得点で合格。	
テキスト	『やさしい教育原理 第3版』有斐閣アルマ			
参考書	授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、常に、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
位置付け・水準	TP9104			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目。教職課程推進室2（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	新聞報道内容から教育問題を抽出し、順番で発表して各自の学びを共有するアクティブラーニングを取り入れる。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 近代公教育を構成する三原理 3. 教育基本法第1条、第2条	小テスト 復習	120
2	生涯にわたる学び	1. 教育基本法第3条、第12条:生涯学習と社会教育	レポート 予習	120
3	教育の機会均等	1. 教育基本法第4条、第5条；義務教育、高校授業料無償化、高等教育への補助制度	レポート 予習	120
4	地方教育行政	1. 教育基本法第16条 2. 地方教育行政法 3. 教育委員会制度改革	レポート 予習	120
5	教職員	1. 教育基本法第9条 2. 教育職員免許法 3. 教育公務員特例法 4. 教員の給与と待遇	小テスト 予習	120
6	就学前教育	1. 教育基本法第11条 2. こども・子育て支援 3. 少子化対策	小テスト 予習	120
7	後期中等教育、高等教育	1. 教育基本法第4条、第7条 2. 後期中等教育の整備と準義務化 3. 高等教育の質保証	レポート 予習	120
8	教育政策の計画化	1. 教育基本法第17条 2. 教育振興基本計画 3. 教育と財政	レポート 予習	120
9	学校の経営	1. 教育基本法第6条、第9条、第13条 2. 学校の経営 3. 開かれた学校と地域社会 4. チーム学校	小テスト 予習	0
10	学級の経営	1. 教育基本法第5条、第6条 2. 学級経営 3. 学級経営と特別活動 4. 問題行動と生徒指導	小テスト 予習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	教育課程経営	1. 教育基本法第6条、第13条 2. 教育課程経営（カリキュラム・マネジメント） 3. PDCAサイクル	小テスト 予習	120
12	教育とリスク	1. 教育とリスク （特別の教科道徳について、価値観の学びについて全体討議を行う）	小テスト 予習	120
13	学校教育と人権	1. 児童生徒の法的地位論 2. 教育行政指導にみる公教育役割のゆらぎ	レポート 復習	120
14	教育改革	教育改革の影響	レポート	120
15	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ 2. 総まとめテスト	まとめテストでの復習	120

授業名	特別支援教育概論(生活科学科1年生)	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 1単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 1単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 選択	
担当教員名	◎小林 徹			
開講期	後期			
授業の概要	1. 特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援について理解する。 4. 障がい児等の個別の指導計画、支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援についてどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	教職課程を履修する学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020			
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	DW2292			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力			
オフィスタイム	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方、制度と仕組み	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	障がいとの出会いと子育て、保護者支援	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実践を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい	発達障がい・知的障がい・情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい	肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズ	病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	他機関との連携	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携、幼保小中高の接続について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	特別支援教育のこれまでとこれから	特別支援教育の歴史的変遷を学習した後、全体の学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	教職論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要なとなる「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来的意義から批判的に検討します。 各授業後半に実施する小テストや小レポートは、添削し、次回授業冒頭で個人へフィードバックします。 また、最終授業において、授業内容全体の総まとめを行います。 なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実態を反映した指導を行います。			
授業の到達目標	1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 単位認定の最低基準は、上記1)～4)の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教職等に就くことを希望する者	成績の 評価方法・基準	まとめ試験50％、授業末や課題として実施する小テスト・小レポート等の提出物等50％の割合で総合評価。	
テキスト	最新版の教育小六法を必ず用意すること（推奨図書『教育小六法2024年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。			
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』2017年			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
位置付け・水準	TP9102			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	月曜日1時間目、及び2時間目			
アクティブラーニング実施内容	授業内容に応じて、グループディスカッション等、アクティブラーニングの手法を活用します。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務経験がある。発達障がい者教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える(グループ・ディスカッション)	まとめの小レポート	90
2	学校教育の機能 1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理	復習 小テスト	90
3	学校教育の機能 2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他	復習 小テスト	90
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教職観と教員に求められる資質の関係 (2) 専門職としての教員 (三つの教職観についてのグループ・ディスカッション)	復習 小レポート	90
5	学校の組織と運営 1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等	復習 小テスト	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	学校の組織と運営 2	○学校の組織と運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化	復習 小レポート	90
7	教諭の教育活動 1	○学級担任の職務と教科指導等 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導 (3) 養護教諭、栄養教諭の職務	復習 小テスト	90
8	教諭の教育活動 2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間	復習 小レポート	90
9	教諭の教育活動 3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義 (教育相談と生徒指導の関係について、全体討議)	復習 小レポート	90
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律	復習 小テスト	90
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度	復習 小テスト	90
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解 (3) 貧困と教育機会	復習 小レポート	90
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) いじめ重大事態における公教育責任 (3) 専門職間の連携・協働 (いじめの4層構造理論をもとに、いじめをなくす方策を全体討議)	復習 小レポート	90
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史的変遷 (2) 新学習指導要領の目指すもの	復習 小レポート	90
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ	復習 総まとめテストのチェック	120

授業名	教育課程論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	「教育のパラドックス」（第1回の授業で解説する）についての理解の上に、教育課程についての基本的な知識を獲得する。そして、教育課程の編成や開発などの基本的な問題の考察を行い、新学習指導要領が重視するカリキュラム・マネジメントの基礎力を培う。また、学習指導要領の変遷について、その社会背景との関連を理解しながら学ぶことで、今日の学校教育や教育課程を相対化する視点を獲得する。各授業の後半に実施する小テストや小レポートは、添削した上で、次回授業冒頭でフィードバックする。さらに、最終回の授業では、授業全体のフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①カリキュラムの編成原理について理解し、授業デザイン等実践上の工夫ができるようになる。 ②学習指導要領の変遷を社会背景との関係で理解し、その役割、機能、意義について説明できるようになる。 ③教科横断的な授業デザインや、学校段階をつなぐカリキュラムの編成について理解する。 ④カリキュラム・マネジメントについて理解し、カリキュラムの編成を評価と関連付けて説明することができる。 単位認定方法の最低基準：①～④のそれぞれを総合して7割以上が達成されていること。			
履修条件	本学教職課程履修者。2学年以上。	成績の 評価方法・基準	小テスト、小レポート等の評価で50％。最終授業で実施する確認テストで50％。総合点で6割以上が合格。	
テキスト	○文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年7月、東山書房。 ○『教育小六法』（3年以内に公開されたもの）。			
参考書	○山田雅彦編著『教育課程論』学文社、2016年。			
学生への要望	実際に教壇に立つことを想定して、授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	TP9105			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、問題解決力、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目。教職課程推進室1（図書館3階）			
アクティブラーニング実施内容	実務家教員として、中等教育や特別支援教育における教員経験から、多様な生徒を対象にする教育課程の実際や、一斉授業における個別配慮の実際を提示することで、学生は議論の対象となるイメージを獲得し、主体的で対話的な深い学びが可能になる。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校に勤務。特別支援教育の教員としては、学習障がい者を主に対象とする全日制教育機関であるフリースクール飛翔中等部（現星槎中学校）に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	○学習の目的と授業計画。 ○「教育のパラドックス」を前提とする人間モデルとカリキュラムの意義。	復習：授業時配布プリント等。	90
2	経験の中のカリキュラム	○自己の経験を振り返ることを通して、カリキュラムの意義について考える。 ○カリキュラムの4層構造。	復習：カリキュラムの4層構造について、説明できるようにする。	90
3	カリキュラムの編成原理①	○児童中心主義と社会的効率主義	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
4	カリキュラムの編成原理②	○行動主義と学問中心カリキュラム、編成の方法と分類。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
5	日本のカリキュラム①	○教育課程行政にみる教育課程編成の仕組み。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
6	日本のカリキュラム②	○学習指導要領の特徴と改訂の背景。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
7	日本のカリキュラム③	○学習指導要領の変遷。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
8	日本のカリキュラム④	○各教科における教育内容の変遷。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
9	日本のカリキュラム⑤	○教育評価（指導と評価の計画）。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
10	日本のカリキュラム⑥	○総合的な学習の時間と教育課程改革。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
11	日本のカリキュラム⑦	○新学習指導要領の特徴（特別の教科道徳と「社会に開かれた教育課程」）。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
12	カリキュラム・マネジメント	○教科横断のカリキュラム。 ○カリキュラムの評価。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	ヒドゥン・カリキュラム①	○学校式教育の特徴と限界。	予習：図書館やＳＮＳで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
14	ヒドゥン・カリキュラム②	○ジェンダーから考える文化と教育目的・計画。	予習：図書館やＳＮＳで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
15	授業のまとめと目標達成度の確認	○全授業内容のフィードバック。 ○授業内確認テスト。	予習：ノートや配布プリントを整理し、疑問点をまとめておく。 復習：確認テスト問題を中心に復習。	90

授業名	道徳教育の理論と方法	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎野口 周一			
開講期				
授業の概要	本授業では、まず道徳の本質・原理などに触れる。その上で、道徳教育は道徳科という授業だけではなく、学校の教育活動全体を通しても行われるという必要があるので、この両者の関係を明確にする。そして、道徳教育の歴史や道徳性の発達性に関する基礎知識について述べ、学校全体にわたる道徳教育の目標・内容、道徳科の目標・内容・指導計画と実際の指導、さらに道徳科の成立に伴う新しい道徳授業を模索して行く。授業の方法としては、グループ別討議や模擬授業を実施する。 課題についてのフィードバックは授業時に行う。			
授業の到達目標	1 道徳の本質や原理などを説明できる。 2 学校の教育活動全体で行う道徳教育の目標・内容及びその中核となる道徳科の目標・内容・指導計画・指導法などを理解できる。 3 上記の2点を踏まえて、道徳に関する指導案を作成して、その模擬授業を展開できる。 4 新しい道徳授業をつねに模索し続けることができること。これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げる「問題解決力」や「倫理観・社会的責任」や「総合的学習・創造的思考力」が培われる。 単位認定の最低基準は8割である。			
履修条件	中学校・高校教諭の教員免許状の取得を目指す学生。	成績の 評価方法・基準	レポート課題（50％）、グループ別討議の内容（20％）、模擬授業（30％）。	
テキスト	野口周一『道徳教育問題と歴史教育』（世音社）			
参考書	特になし。			
学生への要望	講義への主体的な参加を望む。			
位置付け・水準	TP9204			
ディプロマポリシーとの関係	「問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習の経験、創造的思考力」を培うことを目的とするが、冒頭の「人間を護り、人間生活の向上と社会の発展を目指し」「人文・社会・自然にわたる基礎的知識を総合的に用いつつ」という点を特に重視する。			
オフィスタイム	火曜・水曜のお昼休み。教職課程推進室。			
アクティブラーニング実施内容	テキスト・プリントを講読しつつ（指名して音読する）、問題点についてはその都度調べ、ことにより学習を深める。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の内容・進め方、グループ別討議の採用、成績評価の付け方などを説明する。	予習・復習	90
2	道徳とは何か	道徳に関する事例を多角的に検討し、徳目主義の問題点と道徳教育の可能性を考える。	予習・復習	90
3	戦前の道徳教育の歴史	修身科における道徳教育の推移や教育勅語体制の確立、戦時期の国民学校における修身科教育のありようを考察する。	予習・復習	90
4	戦後の道徳教育の歴史	修身科の廃止、「道徳の時間」の特設、「特別の教科」としての道徳科の成立の流れ、現代社会における道徳上の諸課題（いじめや情報モラルなど）を検討する。	予習・復習	90
5	道徳性の発達（1）	道徳性を構成する諸様相にはどんなものがあるか。	予習・復習	90
6	道徳性の発達（2）	小学校児童の道徳性の発達と中学校生徒の道徳性の発達について系統的にとらえる。	予習・復習	90
7	学校における道徳教育（1）	道徳教育の目標と内容をとらえて、その適切な指導を考える。	予習・復習	90
8	学校における道徳教育（2）	道徳教育の全体計画の事例を参照しつつ、その作成する際の配慮すべき事項と全体計画の意義と内容について考える。	予習・復習	90
9	道徳科の目標と内容（1）	道徳科の授業と、それ以外の教育活動における道徳教育との関係について考える。	予習・復習	90
10	道徳科の目標と内容（2）	道徳科の目指すべき目標を検討する。	予習・復習	90
11	道徳科の目標と内容（3）	道徳科で扱う内容項目と、その取扱いの工夫について考える。	予習・復習	90
12	道徳科の指導計画と実際の指導（1）	道徳科の指導計画の立案と、それに沿った道徳授業を展開してみる。	予習・復習	90
13	道徳科の指導計画と実際の指導（2）	道徳科の指導方の模索と評価の意義について考える。	予習・復習	90
14	新しい道徳授業を求めて（1）	「考え、議論する道徳の授業」を実践するには、どんな工夫が必要なのかを検討して、模擬授業を行う。	予習・復習	90
15	新しい道徳授業を求めて（2）	模擬授業の継続と全体の授業のまとめ。	予習・復習	90

授業名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎野口 周一			
開講期				
授業の概要	本講義では、学校教育における特別活動と総合的な学習の時間について、その教育的意義や教育課程上での位置づけの点で明らかにする。そのうえで、学習指導要領における。特別活動、すなわち、学級・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等の核目標・内容・指導法について、そして総合的な学習の時間の意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導方法と評価について、体験的に理解できるようにする。授業の方法としては、グループ別討議や学級を想定した話し合い活動を採用する。 フィードバックの方法は授業時に行う。			
授業の到達目標	1 学校教育における教科外活動の歴史と教科外活動の教育課程化の進行を理解できること。 2 学級活動・ホームルーム活動の教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できること。 3 生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できること。 4 総合的な学習の教育的意義と指導法を理解できること。これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「問題解決力」や「倫理観・社会的責任」や「総合的な学習・創造的思考力」が培われる。 単位認定の最低基準は80％である。			
履修条件	中学校・高校の教員免許状の取得を目指す学生	成績の 評価方法・基準	毎回の教室内での発言、グループ別討議の内容、その発表について50％、最終課題の評価を50％とする。	
テキスト	特に使用しない。			
参考書	特になし			
学生への要望	講義への主体的な参加を望みます。			
位置付け・水準	TP9203			
ディプロマポリシーとの関係	「知識・理解」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験・創造的思考力」を培うことを目的とする。			
オフィスタイム	火曜、水曜のお昼休み。教職課程推進室。			
アクティブラーニング実施内容	配布プリントを講読しつつ（指名して音読する）、問題点についてはその都度調べ、発表することにより学習を深める。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の内容・進め方、グループ別討議の採用・発表等について説明する。また課外活動について調査の実施。	予習・復習	90
2	調査結果の分析と特別活動の意味	調査結果を分析して、特別活動の意味を明確にし、そして特別活動をなぜ学ぶのかを考える。	予習・復習	90
3	教育課程と特別活動との関係	教育課程の意味・定義を明らかにし、教育課程と特別活動の関係をとらえる。	予習・復習	90
4	教育的価値の認められた課外活動の実例（1）	19世紀イギリスのラグビー、明治期の遠足の始まり、その実態と意義を明らかにする。同時に、現在の遠足の意義も考える。	予習・復習	90
5	同上（2）	明治期の運動会と学会会の始まり、その実態と意義を明らかにする。同時に、現在の意義も考える。	予習・復習	90
6	同上（3）	大正期の相談会と昭和前期の課程外指導の実態と意義を明らかにする。同時に、現在の学級活動の意義も考える。	予習・復習	90
7	課外活動の教育課程化とその条件	課外活動の教育課程化とは何か。	予習・復習	90
8	教科課程と自由研究の関係	自由研究の新設、内容、その問題点を明らかにする。この自由研究が次の特別教育活動にどう継承されるか。	予習・復習	90
9	特別教育活動の登場と特別活動の成立	特別教育活動の登場の意味を考え、特別活動への命名変更は何を意味するのか。	予習・復習	90
10	学習指導要領と特別活動の改訂	学習指導要領の改訂（平成29年）の経緯とねらい、特別活動の改訂のポイントを考える。	予習・復習	90
11	特別活動の目標とその活動内容	特別活動の目標はどのように規定され、活動分野に何があるのか。	予習・復習	90
12	学級活動の目標・内容とその指導法	学級活動における話し合い活動を事例に考える。	予習・復習	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	総合的な学習の時間の意義	各学校において目標や内容を定める際の実態から考える。	予習・復習	90
14	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習における主体的で対話的な深い学びと指導の仕方について検討する。	予習・復習	90
15	授業のまとめ	講義全体の振り返りを行う。	予習・復習	90

授業名	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	教育の方法は、学ぶ者、学ぶ内容によって動く生きたものである。何をどう教えていくのか、学校全体の教育課程全体像をつかみつつ、日々の授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論、多様な授業形態、授業の構成要素や評価、授業の基礎的な技術や指導案作成を行う。そして教育機器の効果的な使用方法について学ぶ。提出物を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①教育方法の基礎理論について、7割以上理解できたか。 ②授業の構成要素や多様な学習評価について、7割以上理解できたか。 ③授業の指導技術のポイントを7割以上理解し、指導案を作成できたか。 ④情報モラルの現状と課題について、7割以上理解できたか。 ⑤ICT教育の特徴と教材作成方法について、7割以上理解できたか。			
履修条件	教職課程履修者	成績の 評価方法・基準	授業参加度20％、レポート80％	
テキスト	・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考書	・授業中に紹介し、適宜資料を配布する。			
学生への要望	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。 遅刻、欠席をしないよう注意すること。			
位置付け・水準	TP9205			
ディプロマポリシーとの関係	人間生活学科：「知識・理解」「問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」 食物栄養学科：「知識・技能」「社会的応用」「衛生管理・指導」			
オフィスタイム	山上：火、金、14：40～16：00 833研究室 山口：月9：00～10：30、月13：00～14：30 No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	指導案作成とその検討 デジタル教材作成とその検討			
実務家教員の経歴	山上：盲学校、小学校教員経験 山口：IT企業でシステムエンジニア経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（担当：山上裕子）	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまで受けてきた授業を振り返り、現在求められている学びについて考える。	シラバスを確認し、自身が受けてきた授業についてメモにおこす。	60
2	教育の方法の基礎（担当：山上裕子）	子どもから学びが始まる、という教育観に立つ先人たちの提案した教育方法の考え方（ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教育等）とその実践について学ぶ。	授業で取り上げられる人物が生きた時代背景を確認する。	60
3	問題解決学習と授業の構成要素（担当：山上裕子）	自らが問い、課題を設定し、それを解決していくデュイの問題解決学習の理論と実践を学ぶ。また、授業の構成要素について学ぶ。	授業で取り上げられる人物が生きた時代背景を確認する。	60
4	多様な授業と評価（担当：山上裕子）	ドルトンプラン、イエナプランなど多様な授業の方法を学ぶ。多様な授業に応じた多様な評価を学ぶ。	授業で取り上げられる多様な授業について、現在取り入れている学校を調べる。	60
5	指導案の作成の基本（担当：山上裕子）	学習指導計画の基本を学び、現行の「学習指導要領」の総則に沿って、指導計画を立てる。	「学習指導要領」をよく読む。	60
6	指導案の作成（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方に留意し、作成した指導案を記載する。	指導案を仕上げる	60
7	指導案の検討（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方に留意し、作成した指導計画を発表する。	作成した指導計画について学んだことを振り返る。	60
8	ICT教育システムの設定と基本操作の理解（担当：山口猛）	情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の理論及び方法を理解するため、実際に多くの小中高で利用されているICT教育システムを学習者自身のパソコンに設定し、基本操作を説明する。	ICT教育システムの基本操作を復習する。	60
9	ICT教育の歴史と現状（担当：山口猛）	文部科学省・総務省によるICT教育推進の歴史を確認する。また、ICT教育環境の具体的な活用事例から、長所と短所の理解を深める。	ICT教育推進の歴史を復習し、国の政策や課題を復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	情報モラルの現状と課題（担当：山口猛）	子どもたちの学びを脅かすさまざまな課題（情報機器の利用実態・事件/事故）と対策の理解が必要である。情報モラル教育の具体例として、タイムマネジメントとリスクマネジメントを学修する。	授業内容を元に、自分のタイムマネジメントとリスクマネジメントを作成する。	60
11	デジタル教材作成（担当：山口猛）	前回学修したタイムマネジメントとリスクマネジメントについて、デジタル教材を作成する手法を説明する。	デジタル教材を作成する。	60
12	ICT教育システムの応用操作（担当：山口猛）	デジタル教材を授業で利用するための、ICT教育システム応用操作を理解し、授業実践の計画を行う。	ICT教育システムの応用操作を復習する。	60
13	ICT教育システムを用いた模擬授業（担当：山口猛）	ICT教育システムを用いた模擬授業を行う。	模擬授業を行うためのICT環境準備を行う。	60
14	ICT教育システムを用いた模擬授業の反省（担当：山口猛）	ICT教育システムを用いた模擬授業の結果を反省し、改善点を検討する。	検討した改善点を元に、自身のICT教育システムを用いた授業計画をまとめる	60
15	情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の課題共有ディスカッション（担当：山口猛）	第8回～14回までの学習内容を振り返るために、情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の課題をまとめるディスカッションを行う。	自分なりの将来のICT教育の理想像の考えをまとめ、意見ができるようにする。	60

授業名	進路指導論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 1単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 1単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について、学習指導要領、調査研究教職者会議報告書、関連答申、都道府県教育委員会の資料等を考える材料として、アクティブラーニングを取り入れて学びを進める。なお、授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した上で、次回授業冒頭でフィードバックする。また、最終回の授業で、授業全体のフィードバックを行う。 なお、実務家教員としての教員経験を活かした指導を行い、教育現場の実践が想定できる学びを展開する。			
授業の到達目標	①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。 ②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。 ③各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を挙げることができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～③の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教職課程履修者で、2年生以上。	成績の 評価方法・基準	各回の授業で実施する小テスト・レポート（50％）、最終授業で実施する総まとめテスト（50％）の割合で、総合6割以上で合格。	
テキスト	キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」（平成16年1月） （入手方法や必要となる箇所に関しては、授業中に情報提供する）			
参考書	中学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、高等学校キャリア教育の手引き（文部科学省）、文部科学省『生徒指導提要』このほか授業中に適宜紹介する。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、常に主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
位置付け・水準	TP9202			
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目、教職課程推進室1（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	教育行政文書や教育関係統計資料を材料として、グループ討議によって多様な見方・考え方に触れ、進路指導に係わる教育課題についての理解を深める。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 自身が受けてきたキャリア教育（進路指導）の振り返りと経験の共有 3. キャリア教育（進路指導）の目的と目的達成の為に必要なこと	レポート 予習	120
2	キャリア教育の概要	1. キャリア教育が求められている背景 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け 4. キャリア教育の実践をめぐる課題	レポート 予習	120
3	キャリア教育と価値観の育成	1. 中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 2. キャリア発達とキャリア教育 3. 価値観の傾向	小テスト 予習	120
4	進路指導とキャリア教育（1）	1. 進路開拓に必要な育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題	レポート 予習	120
5	進路指導とキャリア教育（2）	1. 校内組織と指導体制 2. 実践を支える運営体制 3. 「チームとしての学校」と全体計画	小テスト 予習	120
6	就職指導と職場体験	1. 就職指導に関係する法令等 2. キャリア教育における職場体験の位置 3. コーチングによるキャリア形成支援	レポート 予習	120
7	若者の雇用をめぐる問題と働き方改革	1. ニート・フリーター、非正規雇用等 2. 格差社会 3. 働き方改革 （雇用をめぐる問題を念頭においた、望ましい進路指導の在り方について議論を深める）	レポート 予習	120
8	授業の総まとめ	授業の総まとめと理解度の確認 総まとめテスト	復習	120

授業名	教育相談論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力をはぐくみ、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や技術）を、実践的に身に付けていきます。 各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下3点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリング・マインド等）を理解する。 ・教育相談の進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を、具体的にイメージできる。			
履修条件	生活科学科 2年生 「教職課程」受講者 食物栄養学科 2年生 「教職課程」受講者	成績の 評価方法・基準	積極的な授業参加（20％）、授業内課題やレポート提出（3回：80％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	DW2295・TP9201			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学人間生活学科DPの「問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」に、また食物栄養学科DPの「社会的応用」「倫理・責任」「衛生管理・指導」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	グループワーク・ディスカッションなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談実務経験のある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する ・「ここに残るあの先生…」を振り返るワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
2	学校における教育相談の定義	・学校内で行われる教育相談について概要を説明する ・人の気持ちを理解するワーク1を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
3	学校における教育相談の歴史	・学校内で行われる教育相談の歴史的背景を説明する ・人の気持ちを理解するワーク2を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
4	学校における教育相談の種類	・教育相談を行うにあたっての、校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性を説明する ・人の気持ちを理解するワーク3を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
5	教育相談を組み立てる 1	・インテーク面接の基本について説明する ・相談ロールプレイ 1、情報整理シートの記入を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
6	教育相談を組み立てる 2	・ジェノグラムの描き方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
7	教育相談を組み立てる 3	・エコマップの描き方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
8	教育相談を組み立てる 4	・行動観察について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
9	教育相談を組み立てる 5	・心理検査の見方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
10	教育相談を組み立てる 6	・復習と質問項目の検討 ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	教育相談を組み立てる 7	・相談ロールプレイ 2 を行う ・子ども及び保護者に対する支援計画を含む面接相談記録を作成する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
12	教育相談の技法 1	・カウンセリングの基本的な理論について説明する ・人間観と基本的態度について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
13	教育相談の技法 2	・カウンセリングマインドについて説明したのちに、体験ワークを行う	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
14	教育相談にあがってくる問題 1	・子どもと教育者、暴力をめぐる問題について、事例をあげながら説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
15	教育相談にあがってくる問題 2	・いじめや不登校、性の問題など、具体的な事例をもとに説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

授業名	生徒指導論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	生徒指導の機能と意味を把握した上で、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、さらに、いじめや不登校、非行等の問題行動の予防と対策に重点化する近年の動向について理解を深めていく。各授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した後、次回授業冒頭にてフィードバックする。また、最終回の授業において、授業全体をフィードバックする。なお、授業内容に応じてアクティブラーニングの手法を取り入れる。また、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実際が想定できる指導を行う。			
授業の到達目標	【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点 ①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間となるのを支援することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。 ②生徒指導では、生徒個々の自己実現を支援すべく、集団としての生徒指導と個別の教育相談活動を連動させる必要があることが理解できたか。 ③生徒指導は、学校内の教職員の協力体制があってこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっていることを理解できたか。 ④生徒指導は、子どもたちの健全育成プランと連動するので、その推進には様々な関係者との連携が不可欠であることが理解できたか。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教職課程履修者。 3学年以上。	成績の 評価方法・基準	各授業回ごとに実施する確認小テスト・レポートで50%、最終回に実施する総まとめテストで50%の割合で評価し、総合評価6割以上で合格とします。	
テキスト	・文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』 ・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。			
参考書	授業中にその都度紹介する。 尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。			
学生への要望	授業に際しては、 ①レポートは必ず指定の日までに出す。 ②指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。 ③配布された資料はファイリングして、教科書として使用できるようにすること。			
位置付け・水準	TP9206			
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目、教職課程推進室1（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	各授業において、学生個々の学校体験を振り返り、経験を基盤に考察した内容を発表し、他者と共有するアクティブラーニングを採り入れる。特に、第10回授業においては、規範意識の涵養と校則との関係について、グループ討議を行う。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入 本授業の構成・計画について理解する 「生徒指導」の既存イメージを共有する	・本授業の目標と授業内容構成を理解する。 ・自分の学校体験の中にある「生徒指導」のイメージを確認し、発表を通して他者と共有する。 ・レポート「思い出に残る良い先生」をまとめ提出する。	レポート 復習	120
2	生徒指導の意味と位置づけ	・前回提出したレポートについて数名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。その中で、良い教師が持つ指導力に焦点をあて、それを生徒指導と関連づけてみる。 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。	レポート 予習	120
3	生徒指導と教師の姿	生徒指導の観点から教師の在り方を考える。 1 手本としての教師 教師の権力性を確認した後に、「教育のパラドックス」と生徒指導の観点から教師に必要な姿勢を洞察する。 2 教師の自己開示 上記1の具体的内容として、教師の自己開示の必要性和方法を考える。	レポート 予習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	生徒指導の組織体制	多角的な観点から、生徒指導の組織体制について、理解を深める。 1. 生徒指導の校内組織と生徒指導年間計画 2. チームとしての学校 3. 初期対応力とアセスメントの力	小テスト 予習	120
5	自立を促す生徒指導の手法	子どもに自立を促す生徒指導の手法を理解する。 1. コーチングとティーチング 2. 構成的グループ・エンカウンター 3. 感情のコントロールとマネージメントなど	小テスト 予習	120
6	少年非行問題	少年非行について、その問題性と対峙方法について 1. 少年非行の推移と現代的非行の特徴 2. 非行の具体的様相と非行モデル化 3. 非行からの立ち直り 4. 少年事件処理手続きの流れと教師の役割	レポート 予習	120
7	いじめ問題と対策	いじめの現状理解と最新のいじめ理論から、具体的対策について理解を深める。 1. いじめの現状 2. いじめの理論 3. いじめ防止対策推進法と生徒指導体制	レポート 予習	120
8	生徒指導と教育相談	生徒指導と教育相談の関係を整理し、指導の両輪としての性格を理解する。 1. 相談体制 2. カウンセリング・マインド 3. 校則と教育相談	小テスト 予習	120
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	・文科省『生徒指導提要』を手掛かりにして児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）のあり方を体系的に学ぶ。 ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ 他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や他機関との連携についての知識を深める。	小テスト 予習	120
10	子どもの規範意識とその芽生え	子どもの自立性・主体性と規範意識の関係を探究的に理解する。（グループ討議による仮説と検証） 1. 規範意識を育むこと 2. 公共性や奉仕の精神が育まれる条件	レポート 予習	120
11	「抱え込み」から開かれた「連携」へ	学校への期待の変化と危機管理責任の観点から、生徒指導の効果的な連携の在り方を学ぶ 1. 児童生徒の法的地位と学校への期待 2. 生徒指導と危機管理 3. 多様な対象への対応を可能にする組織連携	小テスト 予習	120
12	多様な子どもたちと権利を守る諸法	多様な子どもの状況を知り、それに対する子どもの人権の観点から、生徒指導の在り方を考える。 1. 特別支援教育 2. 貧困状態におかれた子ども 3. 性的マイノリティー	小テスト 予習	120
13	不登校問題と教育機会確保法	不登校の現状と対応の基本的考え方を理解した上で、教育機会確保法の持つ不登校へのインパクトを考える。 1. 不登校の定義と現状 2. 不登校の子どもへの支援 3. 不登校のケース会議と教育支援シート 4. 教育機会確保法の内容と、それが不登校に対して持つ意味	レポート 予習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	生徒指導とキャリア教育	生徒指導とキャリア教育の関係を理解する。 1. キャリア教育の必要性 2. 進路指導とキャリア教育 3. 職場体験活動 4. 高校中退と高等学校卒業程度認定試験	レポート 予習	120
15	授業のまとめ	授業の総まとめを行う中で、授業全体の理解度を確認する。総まとめテスト。	復習	120

授業名	教育実習Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 1単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 1単位 必修	
担当教員名	◎山本 裕詞 瀬谷 真理子			
開講期				
授業の概要	教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままで生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。 事前指導に関しては、ワークシートに既卒者の日誌から学んだ記載上のポイントまとめて提出し、添削してフィードバックする。事後指導においては、実習体験の発表内容を互いに評価し、評価表をフィードバックする。また、課題であるリフレクションシートを評価し、必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。なお、当該授業は、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う。			
授業の到達目標	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場면을想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。 単位認定の最低基準は、上記①～⑤の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績の 評価方法・基準	①事前指導で義務付けた提出物の内容（30点） ②事後指導時に提出させるリフレクションシート(20点) ③実習反省の発表(30点) ④最終レポート「教育実習を終えて・私の課題・」（1200字)(20点)	
テキスト	「教育実習－マニュアルと記録－」（本学様式。授業の最初の時間に配布する）をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。			
参考書	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版（東信堂）			
学生への要望	1．学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。 2．積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。 3．教育実習の受入校（生徒と教師）に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。			
位置付け・水準	TP9301			
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目。教職課程推進室1（図書館3階）			
アクティブラーニング実施内容	教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。			
実務家教員の経歴	山本は中高の教員として神奈川県立高等学校、学校法人白根開善学校等で勤務。発達障害者教育の教員としてはフリースクール飛翔中等部等で勤務。 瀬谷は福島県立高等学校校長を複数歴任、専門教科「家庭」、一級衣料管理士資格取得。教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、事前指導1	・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守（担当；山本）	実習日誌への実習校情報等の必要事項の記載	120
2	事前指導2	・教育実習に臨むにあたっての不安と期待（レポート） ・教育実習日誌の書き方 (先輩方の日誌を参考に、日誌の書き方のポイントを各自で抽出し、その後発表を通して気付きを共有する) ・評価と指導の一体化について (担当；山本)	復習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	事前指導3	・模擬授業（道徳、特別活動）（教師役と生徒役のロールプレイングと気づきの共有） ・教科指導案（細案）の個別指導 ・実践と批判を介した修正（担当；瀬谷）	学習指導案の修正と作成 模擬授業の準備	180
4	事前指導4	・模擬授業（道徳、特別活動）（教師役と生徒役のロールプレイングと気づきの共有） ・教科指導案（細案）の個別指導 ・実践と批判を介した修正（担当；瀬谷、山本）	学習指導案の修正と作成 模擬授業の準備	180
5	事前指導5（オンデマンド授業）	・模擬授業（特別活動：教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有） ・実践と批判を介した修正 ・学習指導案（細案）の個別指導 ・お礼状の書き方 ・実習日誌の受取について（担当；山本）	事前指導全体の振り返り 注意事項の再確認 模擬授業案の完成	180
6	事後指導1	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成（担当；山本）	発表準備	120
7	事後指導2	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成（担当；山本）	発表準備	120
8	事後指導3	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成（担当；山本）	発表準備	120

授業名	教育実習Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 4単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 4単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 4単位 必修
担当教員名	◎山本 裕詞		
開講期			
授業の概要	教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行う。その際、実習巡回等の機会を通して実習体験をフィードバックし、主体的で個別的なニーズに応じた学びが展開できるようにする。したがって授業の全てが広義のアクティブラーニングとなる。巡回指導等においては、担当教員の実務経験を活かした指導が行われる。 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。		
授業の到達目標	①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。 単位認定の最低基準は、上記①～⑤の総合的評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績の 評価方法・基準	実習校からの評価(40%)と実習記録(30%)および実習への取り組み(30%)の割合で評価し、6割以上の総合点で合格。なお、教員採用試験等の未受験は達成目標⑤との関係から5点減点する。
テキスト	教育実習 マニュアルと記録 郡山女子大学		
参考書	事前指導の際に連絡する。		
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨むこと。		
位置付け・水準	TP9302		
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力		
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目。教職課程推進室 1（図書館3階）		
アクティブラーニング実施内容	3週間にわたり、学校教育の場において、教育実習生として教員業務を体験し、実習の終盤には、実習の集大成としての研究授業を実施する。すなわち、全てがアクティブラーニングであるといえる。		
実務家教員の経歴	中高の教員として公立高等学校（神奈川県）、私立の中高一貫校（群馬県）、フリースクール中学部（神奈川県）等で勤務。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習（1日目）	実習校によるオリエンテーション 1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え・諸注意 3. 現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	120
2	現場実習(2日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	120
3	現場実習(3日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
4	現場実習(4日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
5	現場実習(5日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
6	現場実習(6日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
7	現場実習(7日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
8	現場実習(8日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
9	現場実習(9日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
10	現場実習(10日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	現場実習(11日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
12	現場実習(12日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
13	現場実習(13日目)	実習校での現場実習（観察実習、教壇実習）	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
14	現場実習(14日目)	実習校での現場実習、研究授業での授業実践。	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	180
15	教育実習成果のまとめ (15日目)	1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決	実習の総まとめ（実習日誌の仕上げ）	180

授業名	教職実践演習（中・高）		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 必修
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	本演習では、以下の4項目を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指します。教員の授業担当はオムニバスになり、授業単元ごとのレポート等を通して、フィードバックが行われます。最終回の授業において、履修カルテの仕上げによって、教職課程全体をフィードバックします。 なお、オムニバスで担当する教員の中には、中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う者が複数おり、教育現場の実感を意識した学びが重視されます。授業内容の特質に応じてアクティブラーニングが取り入れられます。			
授業の到達目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 ②生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。 3. 児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。 4. 教科の指導力に関する事項 ④中学校の家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること		成績の 評価方法・基準	担当教員それぞれが、各回のレポート等を10点満点で評価する。全員の評価を平均し、100点満点に換算して評価する。
テキスト	教科書は使用しない。必要な資料を授業の際に、配布するので、各自ファイル等に綴じて管理すること。			
参考書	授業の際に、各担当教員より提示。			
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	TP9303			
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目。教職課程推進室1（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	第9回～4週間にわたる「自己の専門性を他の専門職者に伝える」プログラムでは、チームを作り、学生が自律的に学習計画を作成・実行する。4週目が各チームによる合同発表会となり、相互評価を通じて異職種間の理解を深める。			
実務家教員の経歴	実務経歴：中等教育や特別支援教育等での教員経歴がある者は、以下の通り。 小林、磯部、山本、亀田、折笠、黒沼、ホーナー。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：山本、野口、亀田	①教職課程における「教職実践演習」位置付けについて理解する。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③教職採用試験受験状況、その他教職アンケート調査 ④履修カルテに関する説明	レポート 復習	90
2	「特別支援教育」の現状と課題 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：小林	いわゆる「気になる子」と特別支援教育の現状と課題について、理解を深める。	予習 レポート	120
3	教育史に学ぶ教育〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：野口	教育史の中から教育の実際にせまる。	レポート、復習	120
4	学校教育における芸術科教育 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：磯部、黒沼	学校教育における芸術科教育の意義に触れるとともに、芸術科教員から家庭科教諭や栄養教諭に望むことを理解する。	レポート	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	円滑なコミュニケーション・連携の方法について〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：折笠	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚）	レポート 復習	120
6	円滑なコミュニケーション・連携の方法について〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：折笠	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚）	レポート 復習	120
7	教師の教養としての英語表現力〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：ホーナー	英語での自己紹介力を高める。	レポート 復習	120
8	特別支援教育の観点からみえる教育課題（仮題）〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：藤村	教育時事を踏まえて、特別支援教育の観点からみえる教育課題について考え、認識を深める。	レポート	120
9	自己の専門性を他の専門職者へ伝える① 作戦会議と教材作成 担当：山本	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究 プレゼンテーション準備	120
10	自己の専門性を他の専門職者へ伝える② 作戦会議と教材作成 担当：山本	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究 プレゼンテーション準備	120
11	自己の専門性を他の専門職者へ伝える③ 作戦会議と教材作成 担当：山本	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究 プレゼンテーション準備	120
12	自己の専門性を他の専門職者へ伝える④ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：山本、野口、亀田	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションを行う。	レポート	120
13	食物アレルギーと望まれる食育の在り方 担当：亀田	栄養教諭としての実践経験を踏まえた、食物アレルギー対策と望ましい食育のあり方について、知見を深める。	レポート	120
14	音楽療法の世界に学ぶ〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：佐藤久美	音楽療法の世界に触れることで、教育現実を相対化し得る精神的素養をひろげる。	レポート	120
15	まとめ〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕 担当：山本、野口、亀田	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。	履修カルテの完成	120

授業名	教職キャリアデザインⅠ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	教職キャリアデザインⅠは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方途を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成り、内容の性質に応じてアクティブラーニングの手法がとられる。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。授業各回ごとの課題や答練の添削等を通してフィードバックするので、復習に活用すること。 なお、担当教員の内、山本、瀬谷、亀田に関しては、中等教育における教員経験がある。学校教育の実際を経験した立場から、授業の各内容を担当することで、学校教育の実際を反映する採用試験対策、ひいては教職キャリア形成を効果的に支援する。			
授業の到達目標	①教員としてのキャリア形成を意識した取り組みができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識し、向上させることができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～②の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、卒業生を対象とする。	成績の 評価方法・基準	取り組み姿勢30%、提出物70%の割合で各回の授業担当者の総合評価による「認」評価。	
テキスト	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版が望ましい） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
位置付け・水準	TP9001			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目、教職課程推進室1（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	個人面接や集団討論では、学生が実践するアクティブラーニングの手法をとる。			
実務家教員の経歴	山本は、神奈川県立高等学校、私立中高一貫校教諭、専門教科「社会」「公民」、学習障害者対象フリースクール教員を経験。 瀬谷は、福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、1級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 亀田は、福島県内で学校栄養職員及び栄養教諭を経験、管理栄養士。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 担当：山本	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。	復習	90
2	教育法規 担当：山本	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
3	特別支援教育 担当：藤村	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。	復習	90
4	教科別指導① 担当：（家庭）瀬谷（栄養）亀田	志望する自治体の出題傾向を研究する。	復習	90
5	教科別指導② 担当：（家庭）瀬谷、（栄養）亀田	志望する自治体の出題傾向を研究する。	復習	90
6	教科別指導③ 担当：（家庭）瀬谷（栄養）亀田	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。	復習	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	教育心理 担当：佐藤久美	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
8	教育心理 担当：佐藤久美	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
9	教育時事 担当：山本	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
10	教育史 担当：野口	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
11	小論文指導① 担当：野口	小論文の出題例、書き方の概要解説	復習	90
12	小論文指導② 担当：野口	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。	復習	90
13	個人面接 担当：瀬谷	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。アクティブラーニング。	復習	90
14	集団討論 担当：山本	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。アクティブラーニング。	復習	90
15	採用試験の申込について 担当：山本	授業のまとめと確認テスト 採用試験の手続き、提出書類について知る。	復習	90

授業名	教職キャリアデザインⅡ		
担当教員名	◎山本 裕詞 野口 周一 小林 徹 折笠 国康 亀田 明美 瀬谷 真理子 磯部 哲夫 ダニエル ホーナー 黒沼 令 佐藤 久美 藤村 励子	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 選択
開講期			
授業の概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教員採用試験の突破に直結する実践的な力をつけることをねらいとしている。 また、授業だけではなく、業者が行う模擬試験（教職教養）の受験をととして、自己の実力を知り、結果を踏まえてキャリア形成の一助となるよう情報提供する。本科目の受講をととして、これまでの勉学がより一層促進されることを目指す。各授業担当者によって、課題の添削等を通して個々へのフィードバックや、受講生全体の傾向を踏まえたフィードバックが行われる。		
授業の到達目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～②の総合的評価が達成度 7 割以上であること。		
履修条件	原則として、本学教職課程履修者の内、大学 4 年生、卒業生を対象とする。	成績の 評価方法・基準	取り組み姿勢30％、提出物70％の割合で総合し、「認」評価を行う。
テキスト	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。		
参考書	『教育小六法』（最新版が望ましい） 志望校種の『学習指導要領』		
学生への要望	本科目の受講をととして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。		
位置付け・水準	TP9002		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任		
オフィスタイム	月曜日の1時間目および2 時間目、教職課程推進室 1（図書館 3 階）		
アクティブラーニング実施内容	授業内容の内、個別面接、集団面接、集団討論等は、アクティブラーニングで実施する。また、教育時事の解説時にも、必要に応じて討論を交えて理解を深めていく。		
実務家教員の経歴	担当教員のうち、山本に関しては、公立の高等学校、私立の全寮制中高一貫校、学習障害者対象のプログラムを持つフリースクール等における教員経験がある。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 担当：山本	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 教職教養に関する出題想定問題を解き、自己の現状を知る。	復習	90
2	小論文（入門編） 担当：野口	「小論文のポイント」を踏まえ、与えられたテーマをもとに、小論文を書いてみる。	課題 復習	90
3	小論文（応用編） 担当：野口	前時に書いた小論文に関し、評価を受ける。 自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。	課題 復習	90
4	面接指導① 担当：山本	面接指導の実際について、説明する。	受験する予定の採用試験傾向を調べて授業に臨む。	90
5	面接指導② 担当：山本	志望する自治体の特色（教員養成指標等）を調べて、発表する。 志望する自治体の教員像から、具体的な教師の在り方を話し合う。	志望する自治体の教育委員会ＨＰ等から情報を収集して、授業に臨む。 復習	90
6	小論文指導(活用編) 担当：野口	小論文講座の基礎編、応用編で学修した内容を活用して、小論文を作成する。 小論文講評によって、残された課題を明確化する。	課題 復習	90
7	小論文指導（上達編） 担当：野口	基礎編、応用編、活用編での学修を踏まえ、評価を得る小論文を意識して作成する。	課題 復習	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	小論文指導（総仕上げ） 担当：野口	これまでの小論文講座で学修した内容を総合的に活用し、完成度の高い小論文を作成する。	課題 復習	90
9	面接指導③	集団面接の在り方を学ぶ。ロールプレイを通した相互批判を行う。	復習	90
10	面接指導④ 担当：山本	採用試験対策としての討論の在り方を学ぶ。 ロールプレイを通して、討論について体験的に学ぶ。	予習：過去問集等から討論課題を予想し、対応をシュミレートしておく。 復習	90
11	場面指導（入門編） 担当：山本	採用試験における場面指導の在り方を知り、自己の指導観を批判的に確認する。 その際、個々の指導観の発表をもとに、全体で討議する。	復習	90
12	場面指導（応用編） 担当：山本	既に学んだ場面指導に関する基礎的理解をもとに、採用試験を想定した場面指導について、体験的な学び（場面指導の相互評価）を通して、さらに理解を深め、具体的に対応できる力を身につける。	復習	90
13	教育時事 担当：山本	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。	復習	90
14	個人面接（総仕上げ） 担当：山本	自己をPRする力をつけるとともに、採用試験に対応できる面接スキルが身につけていることを確認し、教職への意識をさらに高める。 なお、他者の面接の様子を観察し、批判することで、自らの面接力の向上を目指す。	復習	90
15	集団面接（総仕上げ） 担当：山本	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をとおして、他者と討議する力を高める。	復習	90

授業名	特別支援教育総論	配当年次 単位数	短期大学部 専攻科幼児教育学専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹 佐藤 久美 藤村 励子			
開講期	前期			
授業の概要	1. 特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	生活科学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020 文部科学省『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017 文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q＆A』チャイルド本社,2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	DS2217			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】毎週水曜 9：00～12：10、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	履修者が「個別の指導計画」を作成・発表した内容についてディスカッションを行う。			
実務家教員の経歴	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史（小林徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実践を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	知的障がい（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と指導方法①（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と指導方法②（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ（小林 徹・佐藤久美・藤村励子）	学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	知的障害者の心理・生理・病理	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹 佐藤 久美 森 洋子			
開講期	前期			
授業の概要	1. 知的障害の生理・病理に関する理解を深める。 2. 子ども全般に共通する心理的傾向と知的障害者に顕著な心理的傾向が相互に関連しながら成長する存在であることを理解する。 3. 知的障害者の心理・病理・生理の特徴を踏まえた教育支援について考察を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 知的障害の生理と病理について理解し、説明することができるか。 2. 知的障害に独自な心理的傾向と、その対応の課題について理解し、説明することができるか。 3. 知的障害者の心理・生理・病理の傾向を踏まえた教育支援について理解し、説明することができるか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	生活科学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	笠井新一郎・坂井聡・刈田知則編著『認知機能・知的機能の困難への対応』建帛社,2021 文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017 文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019			
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	知的障がいについて関心をもち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	DS2218			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【森】担当授業を実施する前後の時間で対応する。			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。森洋子は、知的障害児・者医療の臨床経験が長い。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	この授業が目指すこと（オリエンテーション）（小林・佐藤）	知的障がい児・者の心理・生理・病理の概要について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	認知機能・知的機能の困難とは（小林・佐藤）	知的障がい児・者等有する認知機能・知的機能の困難について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	認知機能・知的機能とは（小林・佐藤）	知能概念の変遷とその困難を有する人を理解する視点について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	心理学的基礎知識①（小林・佐藤）	認知や知的発達を学ぶ上で必要な心理学的な知見について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	心理学的基礎知識②（小林・佐藤）	知能検査や発達検査などの実際について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	医学的基礎知識①（森・小林・佐藤）	知的障がいの疫学的理解や発生要因、合併症について知り、医学的な評価について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	医学的基礎知識②（森・小林・佐藤）	知的障がい児・者に対する医学的な介入法や治療法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	特別支援教育・インクルーシブ教育システムの推進（小林・佐藤）	特別支援教育、インクルーシブ教育システムを推進する上での知的障がいに関する基礎的概念を整理する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	知的障がい特別支援学校における教育課程と指導法① (小林・佐藤)	知的障がい特別支援学校における教育課程と自立活動を中心としたさまざまな指導法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	知的障がい特別支援学校における教育課程と指導法② (小林・佐藤)	知的障がい特別支援学校における教育課程と自立活動を中心としたさまざまな指導法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	知的障がい特別支援学級における教育課程と指導法 (小林・佐藤)	知的障がい特別支援学級における教育課程とさまざまな指導法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	知的障がいをめぐる学校内システムの構築 (小林・佐藤)	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成、学校内の環境整備等について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	知的障がい児・者の生涯発達支援① (小林・佐藤)	知的障がい児が生まれてから就学までの支援と家族・家庭に対する支援について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	知的障がい児・者の生涯発達支援② (小林・佐藤)	知的障がい児・者の卒業後の支援や社会生活のサポート、各機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ (小林・佐藤)	学習内容を振り返り、教師として知的障がいをどのように理解し、当事者の教育支援にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	肢体不自由者の心理・生理・病理		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎藤村 励子				
開講期					
授業の概要	肢体不自由者の生理・病理に関する理解を深め、また、子ども全般に共通する心理的傾向と肢体不自由者に顕著な心理的傾向が相互に関連しながら成長する存在であることを理解する。さらに、肢体不自由者の心理・病理・生理の特徴を踏まえた教育支援について考察を深めていく。 教育的課題について学生同士でディスカッションやグループワークを行い、課題解決に向けた方策を検討する。課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。				
授業の到達目標	1.肢体不自由者の生理と病理について理解し、説明することができる。 2.肢体不自由者の心理的傾向と、その対応の課題について理解し、説明することができる。 3.肢体不自由者の心理・生理・病理の傾向を踏まえた教育支援について理解を深める。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。				
履修条件	生活科学科の学生を中心とする		成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度） 試験50点	
テキスト	特に指定しない				
参考書	肢体不自由教育の基本とその展開（日本肢体不自由教育研究会監修）				
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートを取り復習をすること				
位置付け・水準	DS2219				
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力				
オフィスタイム	水曜Ⅰ、Ⅱ限 No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）				
アクティブラーニング実施内容	教育的課題について学生同士でディスカッションやグループワークを行う。				
実務家教員の経歴	なし				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	肢体不自由とは	肢体不自由、肢体不自由教育の概念について整理する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
2	特別支援教育における肢体不自由教育の位置づけ	特別支援教育の基本的事項と肢体不自由教育の位置づけについて学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
3	肢体不自由教育の歴史と現状	肢体不自由教育の歴史的変遷と現状について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
4	肢体不自由者の心理的傾向①困難さ	肢体不自由者特有の心理的傾向や困難を感じやすい場面について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
5	肢体不自由のある児童生徒の心理的傾向②「姿勢・運動発達」に注目して	姿勢や運動の発達や障害による困難さ、それに伴う肢体不自由者特有の心理的傾向について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
6	肢体不自由のある児童生徒の心理的傾向③「認知発達」に注目して	肢体不自由者の認知発達およびそれに伴う困難さについて学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
7	発達の機能間連関について（運動機能・知能・認知の発達の関連性に注目して）	発達の機能間連関について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
8	肢体不自由の医学的概念 分類ごとの原因・症状	肢体不自由の医学的概念について原因や症状を学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
9	肢体不自由の主な起因疾患①脊椎・脊椎疾患など	肢体不自由の主な起因疾患である脊椎・脊椎疾患について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
10	肢体不自由の主な起因疾患②骨関節疾患など	肢体不自由の主な起因疾患である骨関節疾患について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
11	肢体不自由の主な起因疾患③筋原性疾患など	肢体不自由の主な起因疾患である筋原性疾患について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
12	脳性まひのある児童生徒の運動発達とその障害①痙縮型のまひ児	痙縮型の脳性まひについて学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
13	脳性まひのある児童生徒の運動発達とその障害②アテトーゼ型のまひ児	アテトーゼ型の脳性まひについて学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
14	てんかんの理解と発作時の対応法	てんかんの理解と発作時の対応について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
15	授業のまとめ：医学・教育・福祉の連携	授業のまとめとして、肢体不自由教育における医学・教育・福祉の連携の重要性について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30

授業名	病弱者の心理・生理・病理		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎栗山 宣夫 大西 弘太郎			
開講期				
授業の概要	病弱者の生理・病理に関する理解を深め、また、子ども全般に共通する心理的傾向と病弱者に顕著な心理的傾向が相互に関連しながら成長する存在であることを理解する。さらに、病弱者の心理・病理・生理の特徴を踏まえた教育支援について考察を深めていく。			
授業の到達目標	1.病弱者の生理と病理について理解し、説明することができる。 2.病弱者の心理的傾向と、その対応の課題について理解し、説明することができる。 3.病弱者の心理・生理・病理の傾向を踏まえた教育支援について理解を深める。			
履修条件	生活科学科2年	成績の 評価方法・基準	ある程度の区切りごとに、授業内で小テストを数回（3回程度）おこなう（70％）。授業中の発表・取り組み（30％）。	
テキスト	「病弱児の生理・病理・心理」小野次朗・西牧謙吾・榊原洋一編著、ミネルヴァ書房			
参考書	「病気の子どもの教育入門 改訂増補版」全国病弱教育研究会編、クリエイツかもがわ			
学生への要望	項目ごとに分担し、学生自身がテキストを精読した上でレジュメを作成して発表する機会も設定します。主体的に取り組むことを要望します。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション及び「病気」と「障害」について	授業の進め方、内容、評価等の確認。「病気」とは何か、「障害」とは何かについて。	テキスト1頁～5頁「健康、病気、障害の概念」を精読しておくこと	0
2	小児がんの理解と支援（１）－白血病及び固形腫瘍－	白血病及び固形腫瘍（脳腫瘍を除く）の病理・生理の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト86頁～92頁及び94頁～96頁を精読しておくこと。	0
3	小児がんの理解と支援（２）－脳腫瘍－	脳腫瘍の病理・生理の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト92頁～94頁を精読しておくこと。	0
4	循環器疾患の理解と支援	先天性心疾患の病理・生理の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト59頁～68頁を精読しておくこと。	0
5	アレルギー疾患の理解と支援について	小児ぜん息とアトピー性皮膚炎の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
6	I型糖尿病の理解と支援	I型糖尿病の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
7	腎・泌尿器科疾患の理解と支援	ネフローゼ症候群などの腎・泌尿器科疾患の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト103頁～114頁を精読しておくこと。	0
8	神経系疾患の理解と支援	脳性まひ、脊髄性筋萎縮症、筋ジストロフィー及びてんかんの理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト150頁～163頁、182頁～191頁を精読しておくこと。	0
9	過換気症候群と心身症の理解と支援	過換気症候群と心身症について理解しそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト82頁～85頁及び参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
10	病気の子どもの心理について（１）－入院中－	入院中の子どものストレスの分類とその対応について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。さらにテキスト206頁～214頁を精読しておくこと。	0
11	病気の子どもの心理について（２）－通常学級の中で－	通常学級における病気の子どものストレスの分類とその対応について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。さらにテキスト206頁～214頁を精読しておくこと。	0
12	心理的支援をおこなうためのネットワーク	病気の子どもへの心理的支援をおこなうための多職種連携について学ぶ。	参考書「病気の子どもの教育入門」より必要な部分の資料を事前に配布する。その資料を精読しておくこと。	0
13	まとめ	これまでの学びの重要事項の確認。全体的なフィードバック。	小テストの結果などをふまえて指示する。	0
14	低出生体重児であった子どもの生活、小児肥満(担当:大西)	低出生体重児であった子どもの生活とそれに対する支援について学ぶ。子どものやせ、肥満の理解とそれに応じた支援について学ぶについて学ぶ。	テキスト115頁～133頁を精読しておくこと。	0
15	消化器疾患・栄養障害の生理・病理及び教育的支援と配慮(担当:大西)	子どもの消化器疾患の理解とそれに応じた支援について学ぶ。子どもの消化器疾患の理解とそれに応じた支援について学ぶ。	テキスト134頁～149頁を精読しておくこと。	0

授業名	知的障害者教育論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹			
開講期				
授業の概要	1. 知的障がいのある児童生徒のための学校教育を理解する基礎力を身に付ける。 2. 知的障がいのある児童生徒の発達の傾向について理解し、それとの関連で教育支援を展開する基礎力を身に付ける。 3. 知的障がいのある児童生徒に向けた教育課程の編成、教育内容、指導形態、教科指導について学び、具体的な教育実践に臨む基礎的な力を身につける。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 知的障がいのある児童生徒を対象にした教育課程の構造と編成の基本原則を理解し、説明することができる。 2. 知的障がいのある児童生徒の将来の生活を仮説的に見据えた指導計画を作成できる。 3. 学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	生活科学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	笠井新一郎・坂井聡・荻田知則編著『認知機能・知的機能の困難への対応』建帛社,2021 杉本敏夫監修、松井剛太他4名編著『シリーズ・最新はじめて学ぶ社会福祉 第23巻「特別支援教育と障害児の保育・福祉」』ミネルヴァ書房,2023 文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017 文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019			
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	知的障がいについて関心をもち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	TP8204			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観、社会的責任			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	授業計画案の発表とそれに伴うディスカッション。			
実務家教員の経歴	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	この授業が目指すこと（オリエンテーション） （小林・佐藤）	知的障がい児に向けた教育課程の編成、授業づくり、学級運営の概要について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別な教育的ニーズとは （小林・佐藤）	知的障がい児教育において大切にすべき特別な教育的ニーズについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	知的障がい児の学びの場－通常の学級、通級による指導と特別支援学級、特別支援学校－ （小林・佐藤）	知的障がい児の学びの場である特別支援学校、特別支援学級に加えて、通常の学級と通級による指導について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	知的障がい教育の歴史と制度 （小林・佐藤）	知的障がい児の教育の歴史と制度の変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	知的障がい児に向けた授業づくり①国語（小林・佐藤）	知的障がい児の特性を理解した上での国語の授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	知的障がい児に向けた授業づくり②算数・数学（小林・佐藤）	知的障がい児の特性を理解した上での算数・数学の授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	知的障がい児に向けた授業づくり③体育・音楽（小林・佐藤）	知的障がい児の特性を理解した上での体育・音楽の授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	知的障がい児に向けた授業づくり④各教科等を合わせた指導 (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上での各教科等を合わせた指導の授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	知的障がい児に向けた授業づくり⑤食育・命の学習 (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上での食育・命の学習の授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	知的障がい児に向けた授業づくり⑥キャリア教育 (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上でのキャリア教育の授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	知的障がい児に向けた授業づくり⑦自己肯定感を高める (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上での自己肯定感を高める授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	知的障がい児に向けた授業づくり⑧行事と関連させた授業 (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上での行事と関連させた授業づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	知的障がい児に向けた授業づくりの実際① (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上での授業計画案づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	知的障がい児に向けた授業づくりの実際② (小林・佐藤)	知的障がい児の特性を理解した上での授業計画案づくりについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ (小林・佐藤)	学習内容を振り返り、教師として知的障がい児をどのように理解し、教育課程の編成や授業づくり、学級運営にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	肢体不自由者教育論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎藤村 励子			
開講期				
授業の概要	肢体不自由教育の教育課程の特徴（準ずる教育、知的代替の課程、自立活動を主とする課程など）を理解すべく、その基本原理を学ぶ際に、様々な指導法を体験的に学ぶ。教育的課題について学生同士でディスカッションやグループワークを行い、課題解決に向けた方策を検討する。課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 肢体不自由教育の教育課程の構造と編成の基本原理を理解し、説明することができる。 2. 肢体不自由者の将来の生活を仮説的に見据えた指導計画を作成できる。 3. 肢体不自由教育の理念、歴史、制度等の基本的事項を理解し、説明することができる。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	生活科学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点 5 0 点（小テスト、提出物、授業態度） 試験 5 0 点	
テキスト	特に指定しない			
参考書	1.「教育支援資料－障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実－」文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 2. 日本肢体不自由教育研究会（監修）『肢体不自由教育の基本とその展開』慶應義塾大学出版会			
学生への要望	意欲ある学習態度をもって、ノートをとり、復習をすること			
位置付け・水準	TP8205			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	水曜Ⅰ、Ⅱ限 No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	教育的課題について学生同士でディスカッションやグループワークを行い、課題解決に向けた方策を検討する。			
実務家教員の経歴	なし			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	肢体不自由教育の位置づけ	肢体不自由に関する基礎的な知識と位置づけについて整理する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
2	肢体不自由教育の場	肢体不自由児の教育の場について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
3	肢体不自由教育の教育課程	肢体不自由教育の教育課程について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
4	個別の教育支援計画、個別の指導計画	個別の指導計画、個別の教育支援計画の違いを学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
5	自立活動の指導	自立活動の指導について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
6	肢体不自由児の特性と指導法	肢体不自由者の障害特性や指導法について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
7	教材・教具の工夫	教材・教具について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
8	自立活動における個別の指導計画 ①個別の指導計画の意義	自立活動における個別の指導計画の意義を学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
9	自立活動における個別の指導計画 ②個別の指導計画の立案	自立活動における個別の指導計画を立案する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
10	自立活動における個別の指導計画 ③個別の指導計画の評価	自立活動における個別の指導計画の評価について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
11	コミュニケーションの支援	コミュニケーション支援について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
12	教室の環境整備	教室の環境整備について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
13	肢体不自由の主な起因疾患と教育的支援①脳性麻痺	肢体不自由の主な起因疾患である脳性麻痺の特性と教育的支援について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
14	肢体不自由の主な起因疾患と教育的支援②骨関節疾患	肢体不自由の主な起因疾患である骨関節疾患の特性と教育的支援について学習する。	講義終了後にノートを見て復習する。	30
15	肢体不自由教育の教育課程とカリキュラム・マネジメント	授業内容を振り返り、肢体不自由教育の教育課程についてまとめる。	講義終了後にノートを見て復習する。	30

授業名	病弱者教育論		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎齋藤 淑子			
開講期				
授業の概要	多様化している病弱教育の子どもたちの実態やその背景を踏まえ、それぞれの子どもに応じた教育制度や教育支援のあり方、指導方法について学ぶことで、特別支援教育の専門性と実践力の基礎を培う。			
授業の到達目標	1. 病弱教育の意義について理解し、説明することができる。 2. 病弱教育の学校教育制度、教育課程の編成について理解し、説明することができる。 3. 病弱の子どもの症状、治療、予後、生活の実際に応じた教育支援の方法を理解している。 4. 病弱教育の現状における課題について、これまでの病弱教育の蓄積を踏まえて説明することができる。			
履修条件	生活科学科	成績の 評価方法・基準	1. 授業への関心・意欲・態度、授業終了後実施のリアクションシートにて50点。 2. 課題レポート・発表、および試験にて50点。 3. 上記を総合して60点以上で合格。	
テキスト	病気の子どもの教育入門 全国病弱教育研究会編			
参考書	1. 丹羽登監修、全国特別支援学校病弱教育校長会著『病弱教育における各教科等の指導』ジヤース教育新社 2015年 2. 文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)』2018年 3.森博俊・原まゆみ他編著 『シリーズ子ども理解と特別支援教育 4「特別支援」という実践をとらえ直す』 群青社 2019年 4. 原まゆみ・土岐邦彦他編著 『シリーズ子ども理解と特別支援教育 5 生き方にゆれる若者たち 障害や病いを抱える当事者の自己の育ち』 群青社 2020年 5. 全国特別支援学校病弱教育校長会、深草 瑞世(文部科学省特別支援教育調査官)編著『特別支援学校学習指導要領等を踏まえた 病気の子どものための教育必携』2020年			
学生への要望				
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション。「病弱者教育」について。	オリエンテーション。「病弱者教育」について。		0
2	特別支援教育と病気のある子ども教育をめぐる歴史的展開。	特別支援教育と病気のある子ども教育をめぐる歴史的展開。		0
3	病弱者教育の関連法令	障害者の権利に関する条約と合理的配慮。		0
4	学習指導要領を踏まえた病弱者教育 ①	教育課程の編成。各教科等の指導。		0
5	学習指導要領を踏まえた病弱者教育 ②	教育課程の編成。各教科等の指導。		0
6	学習指導要領を踏まえた病弱者教育 ③	教材教具の工夫。ICTの活用。		0
7	学習指導要領を踏まえた病弱者教育 ④	個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成。		0
8	学習指導要領を踏まえた病弱者教育 ⑤	模擬事例から個別の指導計画を作成する。		0
9	病院内学級における子どもの指導・支援事例。	病院内学級における子どもの指導・支援事例。		0
10	退院前後の指導・支援事例。	退院前後の指導・支援事例。		0
11	病弱特別支援学校のセンター的機能と小・中学校等の連携のあり方。	病弱特別支援学校のセンター的機能と小・中学校等の連携のあり方。		0
12	病弱者の社会参加と進路指導。	病弱者の社会参加と進路指導。		0
13	QOLを高めるための医療・福祉・労働等の連携・支援。	QOLを高めるための医療・福祉・労働等の連携・支援。		0
14	病弱者とその家族を支える法制度。	病弱者とその家族を支える法制度。		0
15	授業のまとめと振り返り。	授業のまとめと振り返り。		0

授業名	重複障害者・学習障害者等の心理・生理・病理	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹 佐藤 久美 藤村 励子			
開講期	前期			
授業の概要	本授業では、重複障害（重度重複障害を含む）及び発達障害者の定義、心理面・生理面・病理面の特徴、分類と診断、状態把握について学ぶ。その上で、さまざまな障害のある児童生徒に対する発達支援のあり方について認識を深めていく。受講生は毎回授業内容に関する感想・意見及び質問を書いて提出し、担当教員がコメント等によるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 特別な教育的支援が必要な障害の種類とその相互関連について理解し、説明できる。 2. 重複障害の定義、原因・病理を心理特性の関係について認識を深める。 3. 発達障害及び言語障害の心理面・生理面・病理面の特徴、感覚や認知及び行動の特性、二次的な障害について認識を深める。 4. 障害の診断と状態把握の視点を理解し、説明できる。 5. さまざまな障害のある児童生徒の特性を踏まえた支援のあり方について理解する。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、レポート、受講姿勢） 期末試験50点	
テキスト	適宜資料配布			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	障害や障害児について関心をもち、学習を深めてください。			
位置付け・水準	DS2223			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】毎週水曜 9：00～12：10、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッション他			
実務家教員の経歴	【小林】中学校特別支援学級担任教諭としての指導、市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験が豊富である。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 発達障害の種類と歴史 [佐藤・小林・藤村]	授業の進め方や成績評価のつけ方について説明する。 「発達障害」に含まれる障害の種類を学習し、発達障害者支援の歴史を概観する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	自閉スペクトラム症（ASD）の理解 [佐藤]	ASDの定義と診断基準、障害特性について学習する。 ASDのある子どもが学習・生活で困ること、懸念される二次障害、障害特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	学習障害（LD）の理解 [佐藤]	LDの定義と診断基準、障害特性について学習する。 LDのある子どもが学習・生活で困ること、懸念される二次障害、障害特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解 [佐藤]	ADHDの定義と診断基準、障害特性について学習する。 ADHDのある子どもが学習・生活で困ること、懸念される二次障害、障害特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	発達性協調運動障害（DCD）の理解 [佐藤]	DCDの概要を学び、DCDのある子どもが学習・生活で困ること及びその支援について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	言語障害の理解 [佐藤]	言語障害の概要を学び、言語障害のある子どもが学習・生活で困ること及びその支援について理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	発達障害者支援における家庭や関係機関との連携 [佐藤]	発達障害者支援における家庭や医療、福祉及び労働機関との連携体制を学習し、その重要性について考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	発達障害の原因、病理の理解 [藤村]	発達障害者等の障害の原因やその病理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	重複障害の定義、概念について [藤村]	重症心身障害の定義や特性について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	重複障害の状態と特性① 知的障害と発達障害 [藤村]	知的障害と発達障害のある児童生徒の特性や支援方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	重複障害の状態と特性② 肢体不自由と病弱・身体虚弱 [藤村]	肢体不自由と病弱・身体虚弱のある児童生徒の特性や支援方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	重複障害の状態と特性③ 盲ろう [藤村]	視覚障害と聴覚障害のある児童生徒の特性や支援方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	重複障害の状態と特性④ 重症心身障害 [藤村]	重症心身障害のある児童生徒の特性や支援方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	重複障害の状態と特性⑤ 医療的ケア児について [藤村]☒	医療的ケア児の特性や支援方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	授業のまとめと振り返り [藤村・小林・佐藤]	学習内容を振り返り、教育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	重複障害者・学習障害者等教育論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎小林 徹			
開講期	後期			
授業の概要	本授業では、重複障害（重度重複障害を含む）及び発達障害の概念等を確認した上で、それらの障害のある児童・生徒に対する特別な教育的支援についての考え方や具体的方法、将来を見据えた支援のあり方（計画立案、検証を含む）等を、視聴覚教材等を利用しながら体験を交えて学ぶ。。受講生は毎回授業内容に関する感想・意見及び質問を書いて提出し、担当教員がコメント等によるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 重複障害者・発達障害者等の教育の歴史を概観し、今後のインクルーシブ教育についても理解を深める。 2. 重複障害者・発達障害者等の行動面、心理面、対人関係等から実態把握の方法について理解し、説明できる。 3. 重複障害教育における医療、福祉関係機関との連携のあり方を学び、児童生徒の生活の質を高める方策や支援の方法を理解する。 4. ICT機器や教材・教具を活用し、重複障害者や発達障害者等に対して自己選択や自己決定を促す指導方法を理解する。 5. 発達障害の状態や特性及び発達段階に即した教育課程編成の意義とその方法を理解する。 6. さまざまな障害のある児童生徒の特性を踏まえた支援のあり方について理解を深める。 単位認定の最低基準は、上記内容の7割が理解できていること。			
履修条件	特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する学生	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、レポート、受講姿勢） 期末試験50点	
テキスト	○文部科学省『特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領』2017年 ○文部科学省『特別支援学校 高等部学習指導要領』2019年			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	障害や障害児教育について理解を深め、実践につながる内容を学びます。より広い視野を持てるよう、グループディスカッションを行う際など、積極的に意見交換してください。			
位置付け・水準	TP8302			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、論理的思考・問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】毎週水曜 1、11限、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）☒			
アクティブラーニング実施内容	グループディスカッション他			
実務家教員の経歴	【小林】中学校特別支援学級担任教諭としての指導、市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験が豊富である。☒			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 発達障害教育の歴史 [佐藤・小林・藤村]	授業計画や成績評価方法、オフィスタイム等を確認する。 発達障害教育の歴史を概観し、発達障害者の感覚や認知及び行動の特性について復習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	通級による指導や特別支援学級における特別的教育課程の編成方法 [佐藤]	通級による指導や特別支援学級における特別な教育課程の編成について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	発達障害教育におけるアセスメントの目的と方法 [佐藤]	発達障害教育におけるアセスメントの目的と学校でのアセスメント方法を学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	自立活動における個別の指導計画の作成とその取り扱い [佐藤]	自立活動における個別の指導計画の作成方法とその取り扱いについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障害のある児童・生徒への指導法① 読み書き [佐藤]	読み書きに関するつまづきの具体像とその原因、原因に応じた指導方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。指導案を作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	発達障害のある児童・生徒への指導法② 計算・推論 [佐藤]	計算・推論に関するつまずきの具体像とその原因、原因に応じた指導方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	カリキュラム・マネジメント、特別支援教育のセンターとしての役割 [佐藤]	個別の指導計画の実施状況に基づく教育課程の評価・改善及びカリキュラム・マネジメントの考え方について理解する。特別支援学校のセンター的機能について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	重複障害の概要、診断と心理特性についての基本的事項 [藤村]	重度・重複障害（重症心身障害）の定義や特性に関する基本的事項について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	重複障害者等に関する教育課程の取扱い [藤村]	重複障害者への教育課程について、自立活動を中心に学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	重複障害者に対する教育の歴史 [藤村]	就学猶予・免除の歴史とインクルーシブ教育について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	重複障害者教育における現状と課題 [藤村]	重複障害者に対する教育の現状と課題、その背景について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	重度・重複障害（重症心身障害）者に対する指導 [藤村]	反応の乏しい重度・重複障害（重症心身障害）者に対する指導方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	医療的ケアの必要な重複障害児に対する指導 [藤村]	医療的ケアの必要な重複障害児に対する指導方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	重度重複障害者の学修評価について [藤村]	反応の乏しい重度・重複障害（重症心身障害）者に対する指導とその評価方法について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	授業のまとめと振り返り [藤村・小林・佐藤]	学習内容を振り返り、教育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	視覚障害者教育総論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎阿尾 有朋			
開講期	集中			
授業の概要	視覚障害児（者）の実態と支援の必要性についての理解を目指す。授業では、日常生活や学習に係る支援機器やシミュレーションレンズを用いた体験を行い、視覚障害による生活や学習上の困難さについて理解を深める。また、視覚障害者が共に暮らす社会の現実に向けて、こういった障害理解教育や合理的配慮が必要か主体的に考える。			
授業の到達目標	・視覚機能の低下の要因となる病理、視覚障害のある子どもの心理及び生理について理解する。 ・視覚障害のある子どもの視覚機能及び発達状況を把握することの意味や方法を理解する。 ・視覚障害のある子どもの教育課程の特徴と個別の指導計画の立案について理解する。 ・視覚障害のある子どもの障害特性及び発達段階に即した指導について理解する。 ・視覚障害のある子どもの定位と移動、点字の学習のあり方について理解する。			
履修条件	生活科学科 3年	成績の 評価方法・基準	授業のリフレクションシート（３０％）、グループワークへの取り組み状況（２０％）、レポート課題（５０％）により評価する。	
テキスト				
参考書	柴田裕一2015「視覚障害児・者の理解と支援（新版）」北大路書房（ISBN:4762828858）			
学生への要望	本授業では単なる知識・技能を学ぶということにとどまらず、視覚障害のある当事者の視点に立って当該の状況を理解し、考えることを求めます。グループワークなどを通して積極的に発言し、主体的に考えることを意識して臨んでください。			
位置付け・水準	DS2321			
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム				
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、障害の捉え方	障害を社会的障壁との相互作用においてとらえることの意味や意義を視覚障害を例として考える。	障害者の権利条約に関する資料について目を通しておく（参照URL） http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000069541.pdf	180分
2	視覚器の理解	目の構造及び機能、「見える」仕組みについて屈折を中心に学ぶ。	配付資料について授業後に目を通し、資格器を構成する部位と機能について考える。	180分
3	視機能異常と疾患	視機能の様々な異常とそれらを引き起こす原因疾患について学ぶ。	視機能の異常を引き起こす疾患について、授業で触れたもの以外にどのようなものがあるか自分で調べる。	180分
4	様々な視機能検査	定量的視力検査や定性的視力検査など多様な検査とそれぞれの特徴について学ぶ。また、ランドルト環を用いた視力検査を実際に体験する。	授業での体験を踏まえ、授業後に検査の手続きを復習する。	180分
5	視覚障害の発達への影響	選定的な視覚障害が発達に及ぼす影響について、発達の各側面に分けて学ぶ。	先天的な視覚障害が発達に及ぼす影響について、授業で触れたもの以外にどのようなことがあるか考える。	180分
6	定位と移動（1）	アイマスクと白杖を用いた疑似体験を行い、歩行における困難さと支援の在り方についてディスカッションする。	視覚障害者の誘導方法に関する動画を視聴しておく。（参照動画） http://www.youtube.com/watch?v=ITDegAsdXGc	180分
7	定位と移動（2）	視覚障害児に歩行を指導する上で必要な事項について学ぶとともにその具体的な方法について考える。	授業での疑似体験から気づいたことや学んだことを整理する。	90分
8	環境の把握（1）	アイマスクをしながら構内の様々な場所や事物について触れる体験を行い、気づいたことを整理する。	視覚障害者の生活状況に関する動画を視聴しておく。（参照動画） http://www.youtube.com./watch?v=KXGwnvwxDFA	180分
9	環境の把握（2）	前時の体験をもとに、環境の把握について指導する上で必要な事項について学ぶ。またその具体的な方法について考える。	授業での疑似体験から気づいたことや学んだことを整理する。	90分

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	重複障害の理解	視覚と聴覚の重複である盲ろうの状態について学ぶ。また、アイマスクとイヤーマフを装着しての疑似体験を行い、気づいたことを整理する。	授業後に「人間開発」の動画を視聴し、感じたことを整理する。（参照動画） http://www.youtube.com./watch?v=tIVT3vbbQLY&t=2s	180分
11	視覚障害の教育における配慮	シミュレーションレンズを装着しての疑似体験を行い、指導を受ける上での困難さについて整理する。その上で、指導上の留意点や重要な点を考える。	授業での疑似体験から気づいたことや学んだことを整理する。	90分
12	点字の指導	点字の基本について学び、天板と点筆を用いて実際に点字を打つ体験を行う。その上で、点字の指導に必要な指導の在り方について考える。	点字の基本について授業後に復習し、修得する。	270分
13	ICT機器の活用	教育におけるICT機器の活用について具体例とともに学ぶ。アプリやタブレット端末を使った体験も行う。	盲学校におけるICT機器の活用に関する動画を検索し、視聴する。	180分
14	学習指導案の作成	仮想事例をもとに学習指導案（略案）を作成する。作成は少人数グループ単位に行う。	授業時間内にできなかった学習指導案の作業を継続する。	270分
15	学習指導案の発表	前時に作成した学習指導案についてグループごとに発表する。	配布する学習指導案（例）によく目を通しておく。	270分

授業名	聴覚障害者教育総論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修	
担当教員名	◎石川 美希			
開講期	後期			
授業の概要	『聴覚障害者と聴者との共存を実現させるためにはどうしたら良いのか?』を大きなテーマとし、以下の内容を講義する。 1. 聴覚障害の生理・病理・心理に関する理解を深める。 2. 聴覚障害児・者のコミュニケーション手段について理解を深める。 3. 情報保障、音声認識、合理的配慮について理解を深める。 4. バリアフリー、ユニバーサルデザインについて理解を深める。 5. 対人関係、対話、学校現場について理解を深める。 課題、レポート、ワークショップについては、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 聴覚障害についての基礎的な知識を身に着けているか。 2. 聴覚障害の生理・病理・心理について理解し、説明することができるか。 3. 聴覚障害に関連する課題について理解し、自分なりに説明することができるか。 4. 本授業で学んだ知識・考えを、ワークショップなどに実践的に生かすことができるか。			
履修条件	生活科学科の学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小レポート、発表・質疑応答、遅刻や授業態度による減点）、レポート25点、期末試験25点 毎回の授業ごとの小レポートへの記載が重要です。白紙提出や的外れな記述は無得点となるので留意してください。	
テキスト				
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	本授業は担当教員が聴覚に障害があるため、手話、文字、合成音声の同時並行使用で授業を進めます。合成音声の関係上、前半30-40分、後半30-40分とし、間に小レポート記入の時間を設ける予定です。			
位置付け・水準				
ディプロマポリシーとの関係				
オフィスタイム	個別相談（ishikawa.miki.r7@dc.tohoku.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容				
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の進め方 ・授業の概要 ・聴覚障害疑似体験	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	聴覚障害児・者の生理・病理・心理（1）	・聴覚障害児・者の生理・病理・心理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	聴覚障害児・者の生理・病理・心理（2）	・聴覚障害児・者の生理・病理・心理について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	聴覚障害児・者のコミュニケーション（1）	・聴覚障害児・者のコミュニケーション手段について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	聴覚障害児・者のコミュニケーション（2）	・聴覚障害児・者のコミュニケーション手段について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	情報保障、合理的配慮など（1）	・情報保障、合理的配慮などについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	情報保障、合理的配慮など（2）	・情報保障、合理的配慮などについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	バリアフリー、ユニバーサルデザインなど（1）	・バリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	バリアフリー、ユニバーサルデザインなど（2）	・バリアフリー、ユニバーサルデザインなどについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	学校現場について（1）	・学校現場において、聴覚障害児がどんなことに困難を抱えていて、どういった支援が必要なのかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	学校現場について（2）	・学校現場において、聴覚障害児がどんなことに困難を抱えていて、どういった支援が必要なのかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	発表・質疑応答（1）	・レポートの内容について、学生同士で共有するため発表を行う。そして質疑応答を通して、学生同士で意見交換を行う。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	発表・質疑応答（2）	・レポートの内容について、学生同士で共有するため発表を行う。そして質疑応答を通して、学生同士で意見交換を行う。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	まとめ・振り返り	・学習内容を振り返り、聴覚障害をどのように理解し、聴覚障害児・者の支援にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	期末試験	・これまで学んだことを自分の言葉で説明できるかどうかを期末試験で確認する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	情緒障害者等教育総論		配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修
担当教員名	◎小林 徹			
開講期				
授業の概要	本授業では、自閉症・情緒障害特別支援学級の対象となっている自閉症及び情緒障害（選択性かん黙、不登校）のある児童生徒について、その障害特性や症状、背景などを理解し、支援の現状とあり方を学習する。また、障害特性や発達の段階等を踏まえた自立活動と関連のある各教科等の授業設計を演習する。毎回授業後に提出する小レポートや模擬授業については、担当教員がコメント等によるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 情緒障害教育の歴史を概観し、今後の課題について理解を深める。 2. 自閉症のある児童生徒が抱える困難とその指導方法について理解する。 3. 選択性かん黙の多様な症状と支援における学校・教員の役割を理解する。 4. 不登校になる背景と支援における学校・教員の役割を理解する。 5. 情緒障害及び発達障害のある児童生徒の状態や特性を踏まえた各教科等における配慮事項について理解し、それに応じた学習指導案を作成することができる。 単位認定の最低基準は、上記内容の7割が理解できていること。			
履修条件	特別支援学校教諭一種免許状取得を希望する学生	成績の 評価方法・基準	平常点20点（コメントシート、受講姿勢）、模擬授業30点 期末試験50点	
テキスト	水野薫編 ASD教育実践研究会著『実践に学ぶ特別支援教育 ASD児を中心とした情緒障害教育の成果と課題、そしてこれからの姿』本の種出版，2017			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	グループワークや発表の際など、積極的に意見交換し、クラスメイトから学ぶ姿勢を大切にしてください。			
位置付け・水準	TP8305			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、論理的思考・問題解決力、総合的な学習経験・創造的思考力			
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	模擬授業、グループディスカッション他			
実務家教員の経歴	【小林】中学校特別支援学級担任教諭としての指導、市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験が豊富である。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 情緒障害の種類と歴史 [佐藤・小林]	授業計画や成績評価方法、オフィスタイム等を確認する。 「情緒障害」に含まれる障害の種類を学習し、情緒障害教育の歴史を概観する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	自閉症のある児童・生徒への指導法① 言語・コミュニケーション [佐藤]	言語・コミュニケーションに関する困難の具体像及び指導における配慮事項について、実践例を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	自閉症のある児童・生徒への指導法② 社会的スキル [佐藤]	社会的スキルに関する困難の具体像及び指導における配慮事項について、実践例を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	自閉症のある児童・生徒への指導法③ 感覚・運動 [佐藤]	感覚・運動に関する困難の具体像及び指導における配慮事項について、実践例を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	自閉症のある児童・生徒への指導法④ 行動 [佐藤]	行動面に関する困難の具体像及び指導における配慮事項について、実践例を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。指導案を作成する。	30
6	障害特性に応じた学習環境の整備、ICT及び適切な教材教具の活用 [佐藤]	障害特性に応じた学習環境と教材教具の活用について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	自立活動の指導と関連づけた各教科等の学習指導案の作成方法 [佐藤]	自立活動と関連付けた各教科等の学習指導案の作成方法を学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	自立活動の指導と関連づけた各教科等の学習指導案に基づく模擬授業① [小林・佐藤]	自立活動と関連付けた各教科等の模擬授業を行い、それぞれの良い点・改善点等について議論する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自立活動の指導と関連づけた各教科等の学習指導案に基づく模擬授業② [小林・佐藤]	自立活動と関連付けた各教科等の模擬授業を行い、それぞれの良い点・改善点等について議論する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	選択性かん黙の多様な状態像 [佐藤]	選択性かん黙の診断基準と症状の多様性について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	選択性かん黙のアセスメントと主な支援方法 [佐藤]	選択性かん黙のアセスメントや治療法（認知行動療法等）について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	選択性かん黙のある児童・生徒への学校における支援 [佐藤]	選択性かん黙支援における教員の役割を理解し、学校で求められる合理的配慮について学習する。また、様々な場面を想定したスモールステップを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	不登校の現状と背景 [佐藤]	各学校（小学校、中学校、高等学校等）における不登校の現状について学習する。不登校になる身体的・精神的な要因を学び、「不登校」という行動を理解する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	不登校児童生徒の多様な学びの場、関係者及び関係機関との連携・協働 [佐藤]	不登校の多様な学びの場や支援機関について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	授業のまとめと振り返り [小林・佐藤]	学習内容を振り返り、教育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	教育実習	配当年度 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 3単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 3単位 必修
担当教員名	◎小林 徹 佐藤 久美 藤村 励子		
開講期	通年		
授業の概要	本授業は、特別支援学校における2週間の現場実習（2単位）とその前後に行われる事前・事後学習8コマ（1単位）を合わせた3単位の授業として設定される。現場実習の目的は以下の4点である。 1. 大学で学んだ内容を、教える立場に立って学校現場で実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを体験的に理解すること。 3. 特別支援学校の実状や児童生徒の実態を知り、具体的な対応や心構えを学ぶこと。 4. 自己の特別支援学校教員としての適性や進路志望を確認すること。 これらの目的を踏まえ、これまでの学びの成果をもとに「教師としての資質」を高めるために現場実習を行う。 事前指導においては、教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、教育実習生として学校現場に入る立場と責任の重さを理解することで、現場実習への不安を取り除き、主体的積極的に向き合えるように指導する。事後指導においては、実習体験の振り返りとまとめを実習生相互で発表することで、問題点の整理と解決を図り、特別支援学校教諭としての望ましい姿をイメージさせていく。		
授業の到達目標	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。（事前学習） ②実習までの事前準備を適切に行えたか。（事前学習） ③実際の指導場面を想定した授業計画案が作成できたか。（事前学習） ④担当する児童生徒の状況に応じて、授業計画案を調整し、実践できたか。（現場実習） ⑤実習生の立場を体験し、教員としての服務基準を理解できたか。（現場実習） ⑥教育実習日誌について、簡潔で的確に記述できたか。（現場実習） ⑦特別支援学校の実状や児童生徒の実態を知り、指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。（現場実習） ⑧実習校の先生方や生徒のふれあいを通して特別支援学校教諭への志望が一層高まったか。（現場実習） ⑨実習体験を振り返り、他者に伝えることができたか。（事後指導） ⑩自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。（事後指導） 単位認定の最低基準は、上記①～⑩の総合的評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	今年度、特別支援学校での教育実習が認められた者。	成績の 評価方法・基準	①事前指導における提出物。授業態度。（20点） ②現場実習の評価。（60点） ③事後指導における発表・提出物。授業態度。（20点）
テキスト	「特別支援学校教育実習日誌」（本学様式）		
参考書	遠藤愛・宇田川和久・高橋幸子編著「特別支援学校教育実習ガイドブック」学苑社、2022.		
学生への要望	1. 事前準備を入念に行い、学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底してほしい。 2. 教育実習生として積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を目指してほしい。 3. 教育実習の受入校や先生方、児童生徒に対して感謝し、その気持ちをしっかり表現してほしい。		
位置付け・水準	TP8401		
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、総合的な学習経験、創造的思考力		
オフィスタイム	【小林】毎週水曜 9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【佐藤】毎週水曜 9：00～12：30、No.7研究室。それ以外は個別相談（kumi.sato@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定） 【藤村】毎週水曜 9：00～12：10、No.7研究室。それ以外は個別相談（fujimura@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
アクティブラーニング実施内容	現場実習における授業実践やディスカッション。事後指導における振り返りの発表とディスカッション。		
実務家教員の経歴	小林徹は、東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、事前指導1 (小林・佐藤・藤村)	・「特別支援学校教育実習日誌」の配布 ・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守	実習日誌への実習校情報等の必要事項の記載	120
2	事前指導2 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習で目指すこと（レポート） ・教育実習の準備（実習校の情報収集、事前打合せについて） ・教育実習日誌の書き方	予習・復習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	事前指導3 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習日誌の書き方 ・研究授業と学習指導案	予習・復習	120
4	事前指導4 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習日誌の書き方 ・研究授業と学習指導案 ・巻末資料の確認	予習・復習	120
5	現場実習 (2週間)	1. 実習校によるオリエンテーション (教育実習の目的・心構え・諸注意等) 2. 実習校での現場実習 3. 教育実習成果のまとめ (教育実習での成果、発見した課題と解決)	実習内容に関する日誌への記載 授業観察 研究授業の準備 実習の総まとめ(実習日誌の仕上げ)	120
6	事後指導1 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成	発表準備	120
7	事後指導2 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成	発表準備	120
8	事後指導3 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成	発表準備	120
9	事後指導4 (小林・佐藤・藤村)	・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション) ・他者評価と自己反省 ・リフレクションシートの作成	発表準備	120